

平成28年度
富山県認知症地域支援推進員
活動推進研修報告書

富山県厚生部高齢福祉課

はじめに

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、認知症の容態の変化に応じて必要な医療・介護等が有機的に連携し、認知症の人への支援を効果的に行うことが重要です。

このため、市町村は、地域包括支援センターや認知症疾患医療センター等に認知症地域支援推進員を配置し、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の間の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行うこととされています。

そこで本県では、平成28年度にすべての市町村において認知症地域支援推進員が配置されたことを受け、他の市町村の取組みや推進員同士の情報交換を目的とし、平成29年1月17日（火）に研修会を実施しました。

このたび、研修会での認知症介護研究・研修東京センターの永田先生の講義や、各市町村における推進員の活動報告を取りまとめましたので、ご活用ください。

平成29年2月

富山県厚生部高齢福祉課

利用にあたって

- (1) 各市町村からの活動報告の情報は、平成29年1月時点のものです。
- (2) この研修報告書は、富山県高齢福祉課のホームページでもダウンロードすることができます。

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1211/kj00000125.html

- (3) お気づきの点がありましたら、下記まで御連絡ください。

連絡先 〒930-8501 富山県富山市新総曲輪1番7号
富山県厚生部高齢福祉課地域包括ケア推進班
電 話 076-444-3205 (直通)
FAX 076-444-3492

～目次～

- | | | |
|---|-------------------------------------|-----------|
| 1 | 「平成28年度 富山県認知症地域支援推進員
活動推進研修」の概要 | P 1 |
| 2 | 講義「認知症地域支援推進員について」 | P2～P 20 |
| 3 | 各市町村における認知症地域支援推進員の活動報告 | P21～P 142 |

「平成28年度 富山県認知症地域支援推進員活動推進研修」の概要

【日 時】平成29年1月17日(火)13:15～17:00(受付12:45～)

【場 所】富山県民会館7階701号室

【目 的】富山県内市町村の認知症地域支援推進員の役割・活動を学び、認知症地域支援推進員の活動及び他職種との連携を推進する。

【対象者】認知症地域支援推進員、市町村担当者、地域包括支援センター、
認知症疾患医療センター、保健所 等

【内容】

時間	内容・講義・発表者
13:15～13:20	あいさつ 富山県高齢福祉課
13:20～13:35	認知症地域支援推進員の役割について(資料1) 認知症介護研究研修東京センター 研究部長 永田 久美子氏
13:35～14:15	認知症地域支援推進員の活動報告(資料2) ①新川圏域【朝日町・入善町・黒部市・魚津市】
14:15～15:00	②富山圏域【富山市・滑川市・立山町・上市町・舟橋村】
15:00～15:10	休憩
15:10～15:40	③高岡圏域【高岡市・射水市・氷見市】
15:40～16:10	④砺波圏域【砺波市・小矢部市・南砺市】
16:10～16:50	グループワーク (意見交換25分・発表10分) 「他の市町村の活動を聞いて自地域に活かしたいこと」
16:50～17:00	助言・統括 認知症介護研究研修東京センター 研究部長 永田 久美子氏

認知症地域支援推進員について

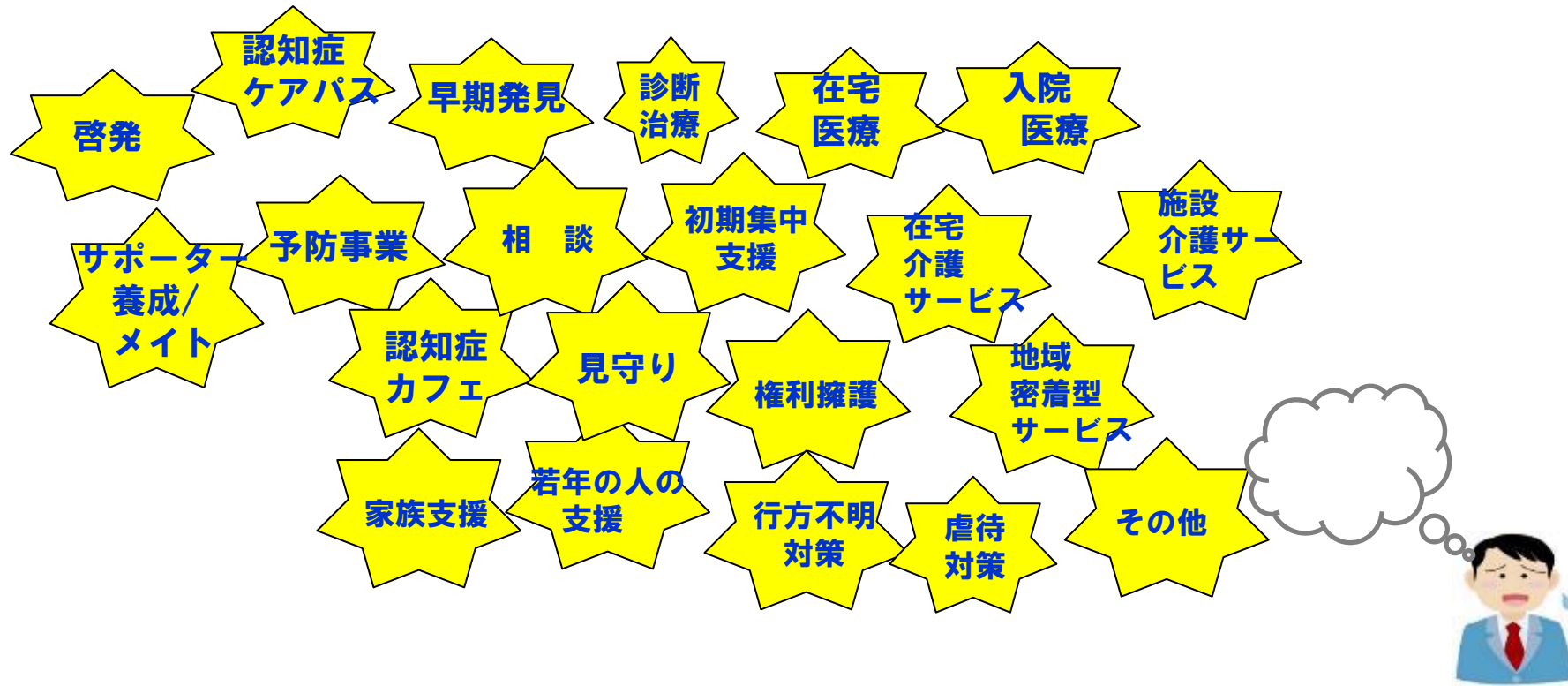
認知症介護研究・研修東京センター
永田 久美子



のびのびと

現状は・・・

年々、急ピッチで事業・サービスが増えてきているが・・・



事業・サービスを「増やす・こなす」やり方では、
せっかく取組んでも、行き詰まる。

当事者も、住民、支援関係者も、そして行政関係者も
楽になれない。

ますます、先行き不安・混乱・疲弊・あきらめが強まる一方。

そこで登場したのが、認知症地域支援推進員！



- ①バラバラのままでなく、地域にあるものを、つなぐ：ネットワーク構築
- ②みんなの認知症の人への理解と対応力を高めよう：対応力向上の支援
- ③（早めの）相談を大切にして、本人・家族が必要なことにつながる流れをつくろう：相談支援・支援体制づくり

認知症地域支援推進員

資料 厚生労働省より

市町村

協働

認知症
地域支援推進員

【推進員の要件】

- ① 認知症の医療や介護の専門的知識及び経験を有する医師、保健師、看護師、作業療法士、歯科衛生士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士
- ② ①以外で認知症の医療や介護の専門的知識及び経験を有すると市町村が認めた者

【配置先】

- 地域包括支援センター
- 市町村本庁
- 認知症疾患医療センターなど



医療・介護等の支援ネットワーク構築

- 認知症の人が認知症の容態に応じて必要な医療や介護等のサービスを受けられるよう関係機関との連携体制の構築
- 市町村等との協力による、認知症ケアパス（状態に応じた適切な医療や介護サービス等の提供の流れ）の作成・普及 等



認知症対応力向上のための支援

※関係機関等と連携し以下の事業の企画・調整を行う

- 認知症疾患医療センターの専門医等による、病院・施設等における処遇困難事例の検討及び個別支援
- 介護保険施設等の相談員による、在宅で生活する認知症の人や家族に対する効果的な介護方法などの専門的な相談支援
- 「認知症カフェ」等の開設
- 認知症ライフサポート研修など認知症多職種協働研修の実施 等



相談支援・支援体制構築

- 認知症の人や家族等への相談支援
- 「認知症初期集中支援チーム」との連携等による、必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整

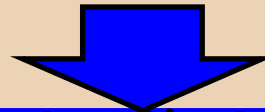


★ 地域の実情、課題に応じて

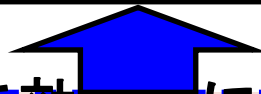
推進員：目指す方向をしっかりと見据えながら

新オレンジプラン

- めざす地域の姿は・・・
認知症の人にやさしい地域



- めざす認知症の人の姿は・・・
認知症とともにによりよく生きていくことができる
 - ・単に支えられる側と考えない
 - ・自分らしく暮らし続けることができる（道筋：パスを辿れる）

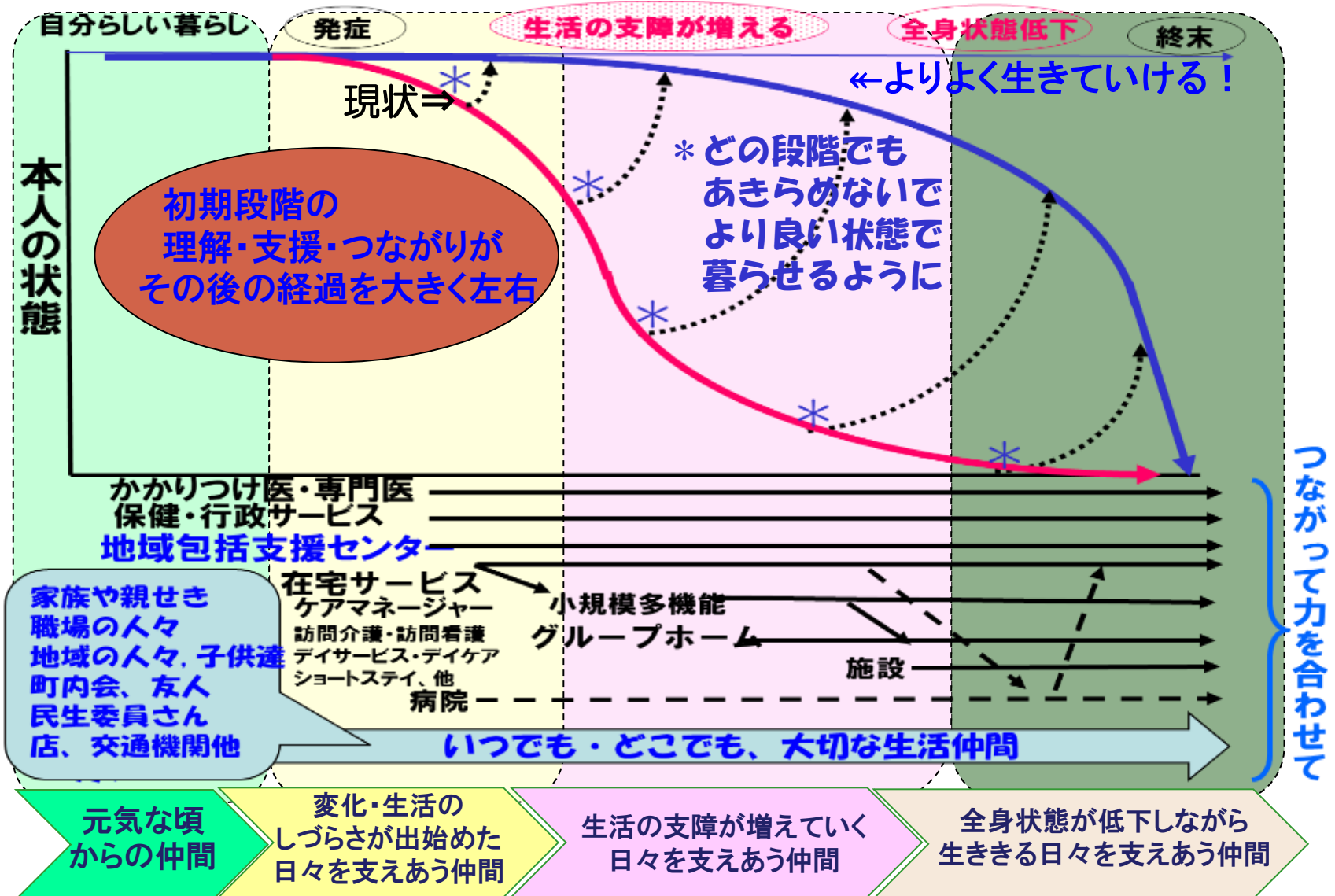


- 方針：めざす姿を効率的に達成するために
 - ・本人の意思を尊重し、当事者の視点に立つ
 - ・住み慣れた地域を（とことん）大切にする
 - ・地域の多様な分野の関係者と共働
 - ・当事者や様々な関係者から幅広く意見を聴取する

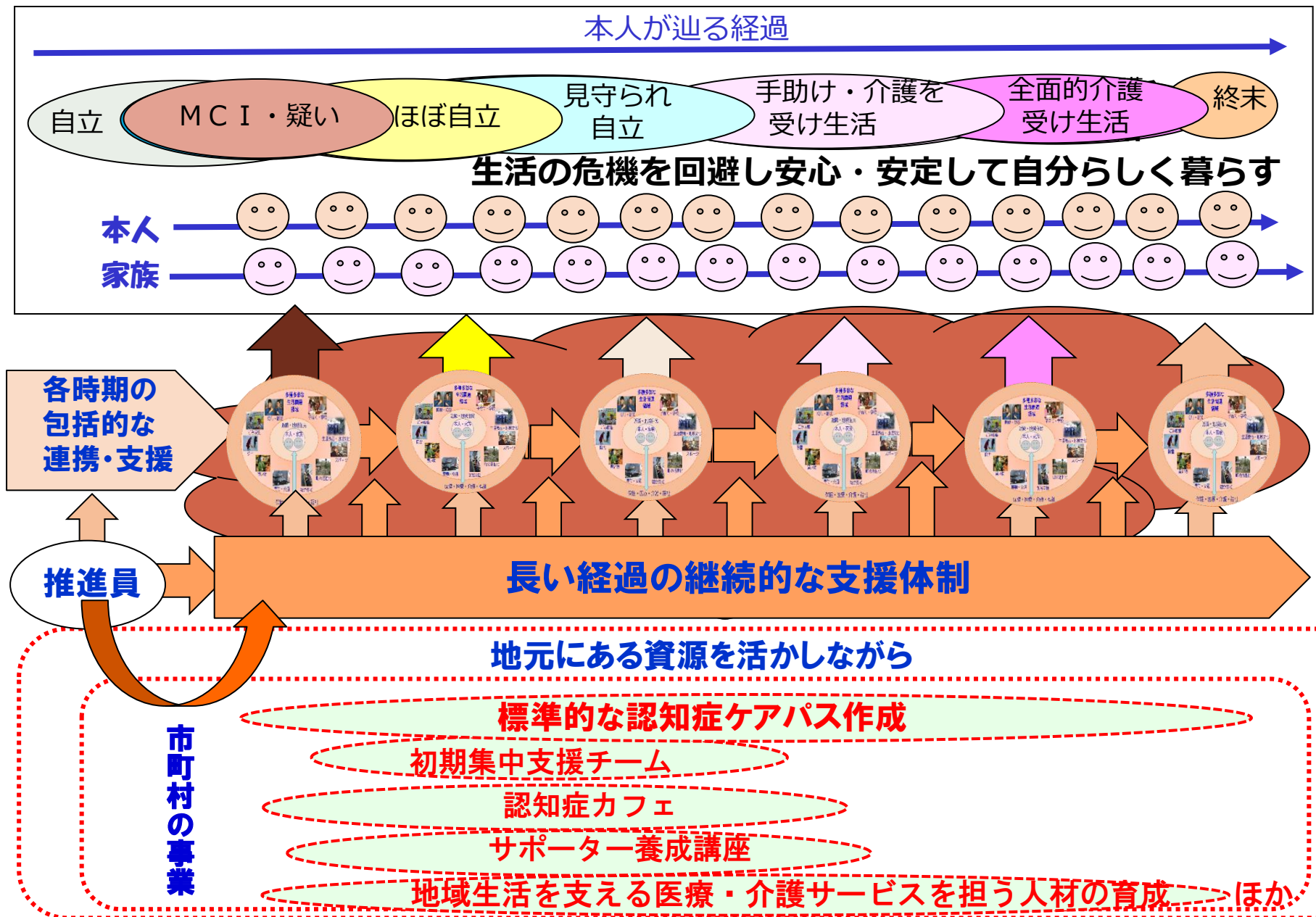
現状：残念な経過を辿っている人が少なくない！

方向性：(もっと)よりよく生きていける(一人ひとりの底力がある)

＊特に、初期段階が、重要



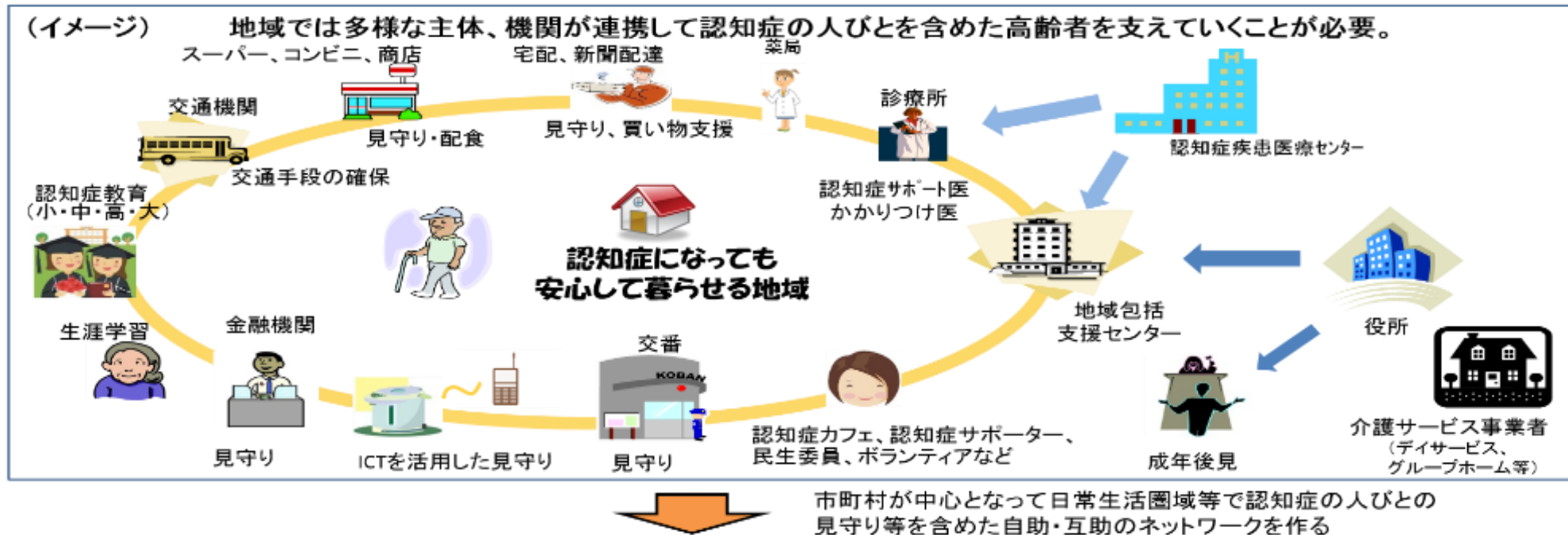
地域の中で、日々をよりよく暮らしていけるために
推進員：地域の資源や事業をつなぐ、対応力向上支、支援体制を築く



社会全体で認知症の人びとを支える

参考資料 厚生労働省

○ 社会全体で認知症の人びとを支えるため、介護サービスだけでなく、地域の自助・互助を最大限活用することが必要。



自分のまちのあらゆる人が、力をあわせて、いっしょに進む

- ・自分ごととして、よりよく生きていくために
- ・一人ひとりができることを、活かしながら
- ・ひたすらつながる、つなげる

町のあらゆる人たちとともに

＊人から人へ、方向性と活きたつながりを紡いでいく

▶ **自治会** ▶ **民生・児童委員（協）** ▶ **（地区）社協**
見守り協力者、集落支援員、婦人会、老人クラブ 地域の長老
▶ **消防団、防犯・防災メンバー** 祭の関係者
▶ **寄り合いどころ（地域サロン等）**
▶ **町の趣味・文化・運動サークル、**
ウォーキング好き、ラジオ体操の会 ▶ 犬の散歩仲間、動物
▶ **未就園児母子、子ども会、学童クラブ** ▶ 子育てサークル
▶ **青年部、若者/グループ、団塊の世代**
▶ **ボランティア（地元の会）施設慰問グループ**
▶ **介護者の会、家族の集い** NPO
▶ **同級生つながり、同僚つながり** など

民

産

本人・家族

学

官

▶ **近くの大学**
▶ **高校** 学校
▶ **中学校**
▶ **小学校**
▶ **保育園、幼稚園**
送迎バス

子供たち
先生たち
PTA



▶ **個人商店（八百屋、魚屋、肉屋等）、スーパー、コンビニ、コープ直売所** ▶ **飲食店** ホームセンター、大工、お寺
▶ **薬局** ▶ **理美容店** ▶ **針灸院、整骨院、マッサージ**
▶ **宅配業者、新聞店** 配達、ヤクルト、牛乳、ゴミ回収業者
▶ **タクシー、バス、駅・鉄道、トラック、ガソリンスタンド**
▶ **銀行、信用金庫、郵便局**
▶ **カラオケ、パチンコ**
▶ **農家、農協、漁協、商工会**
▶ **工場、倉庫**

地元企業



▶ **多様な医療・介護・福祉関係者**

▶ **市職員、**
地域包括支援センター
保健センター
老人福祉センター
公民館
▶ **消防本部**
▶ **警察** など



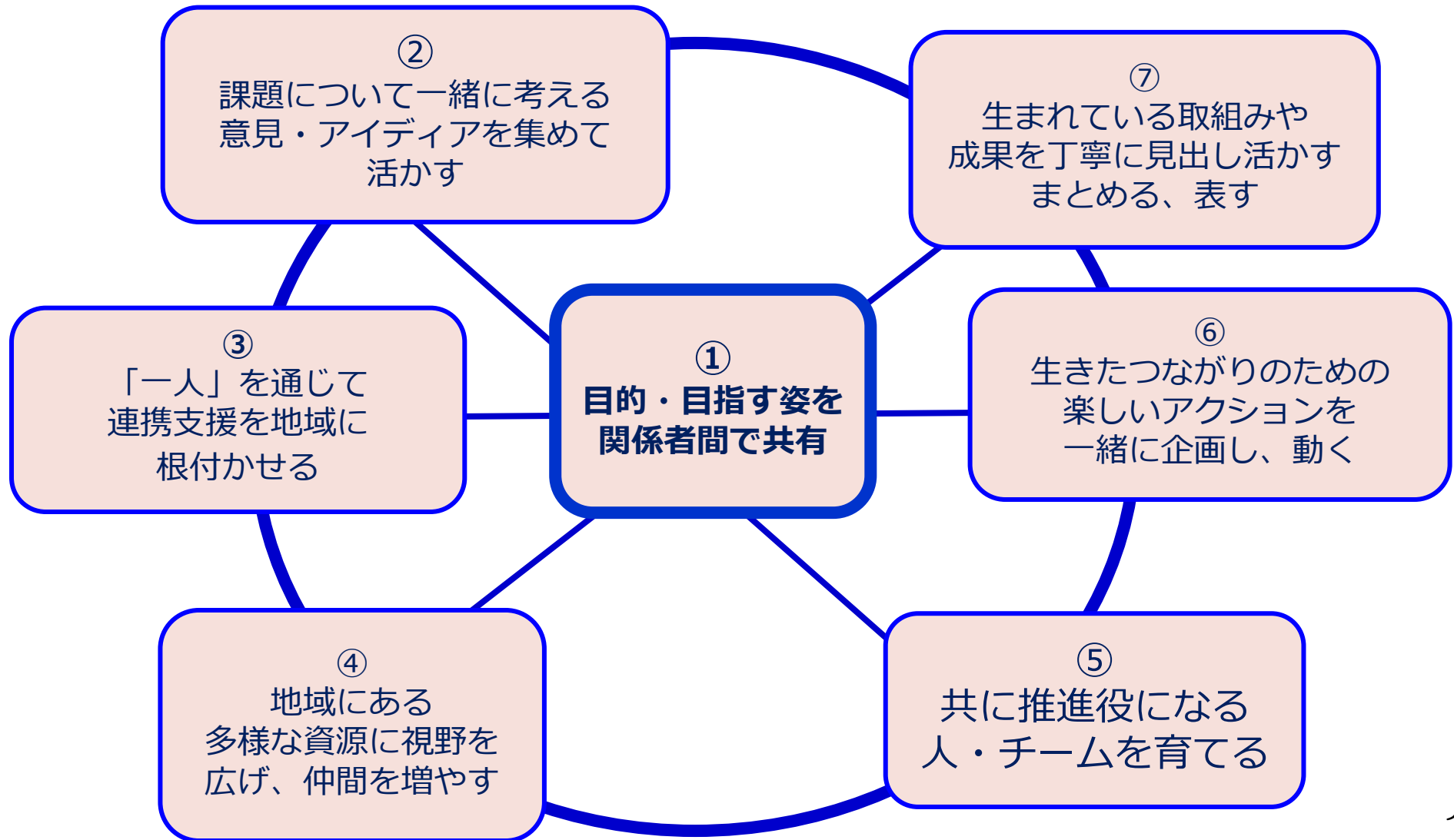
参考・富士宮市資料

わが町の場、自然、季節、文化、産業等

★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む：専門職・行政職も地域の一員
★本人、家族も、地域支援・体制づくりの大事なパートナー！

これまでの推進員の取組みに学ぶ

支援体制づくりのポイント（主な点）



認知症地域支援推進員：具体的役割は、各市町村でそれぞれで違う

今の時期、推進員の**具体的役割・活動環境**を見直そう

***行政担当者、関係者と一緒に**

①当事者・町をよく知る

実態課題・ニーズ
(本音の声)

地元にある資源
それぞれの力

④活動できる環境づくり：行政、職場、地域の中で

③役割の具体化・焦点可

- ①ネットワーク構築
- ②対応力向上の支援
- ③相談支援・支援体制づくり

★めざす姿
・よりよく暮らす
・やさしい地域

②事業・取組の成果と課題の検討→棚卸



推進員の具体的な役割は、地域の実情で様々

課題・ニーズ・できること：一緒に考え、動き出す

- * 方向性を示しながら
- * 自分ごととして：意見・アイデアをだしながら
- * 「一緒にやること」を、見つけながら
→アクションへ！



町をよくみて、つながりながら

- ・アンテナを立てる: 具体的な課題・ニーズ、動きやアイデアを集める
- ・方向性をあわせる: よりよく暮らそう、やさしい地域を
- ・できることを一緒にみつける→やってみる→変化をキャッチ→次へ



なじみの店先で



町内の集まりで



PTAや子供たちの集まりで



中年男性の集まりで



地元の医療・介護サービスの人たちと



町にあるものを活かし、小さく始めて、身近なものに

●参考：矢巾わんわんパトロール隊

2013年4月結成

隊員40名 わん隊員44匹



2015年 岩手県矢巾町健康福祉祭にて

共に推進役になる人・チーム（推進する仲間）を育てる

日々の中での支えあいひろがっていくためには

- ＊地域の人たち(専門職も含む)が自ら考え、
動く力・支えあう力を伸ばしていくことが大切。
⇒そのためには、それぞれの小地域で、
その推進役となる人たちが不可欠！



- ＊推進役として伸びていく貴重な人材が
町の中にいる！きっかけ・出番を待っている。
⇒実践的に学びあい、一緒にアクションをしながら
わが町をよりよくしていく推進役の仲間
(人・チーム)を、年々(少しずつ)増やしていく。
⇒その小地域ならではの地域支援・体制づくりが
持続発展的に進む

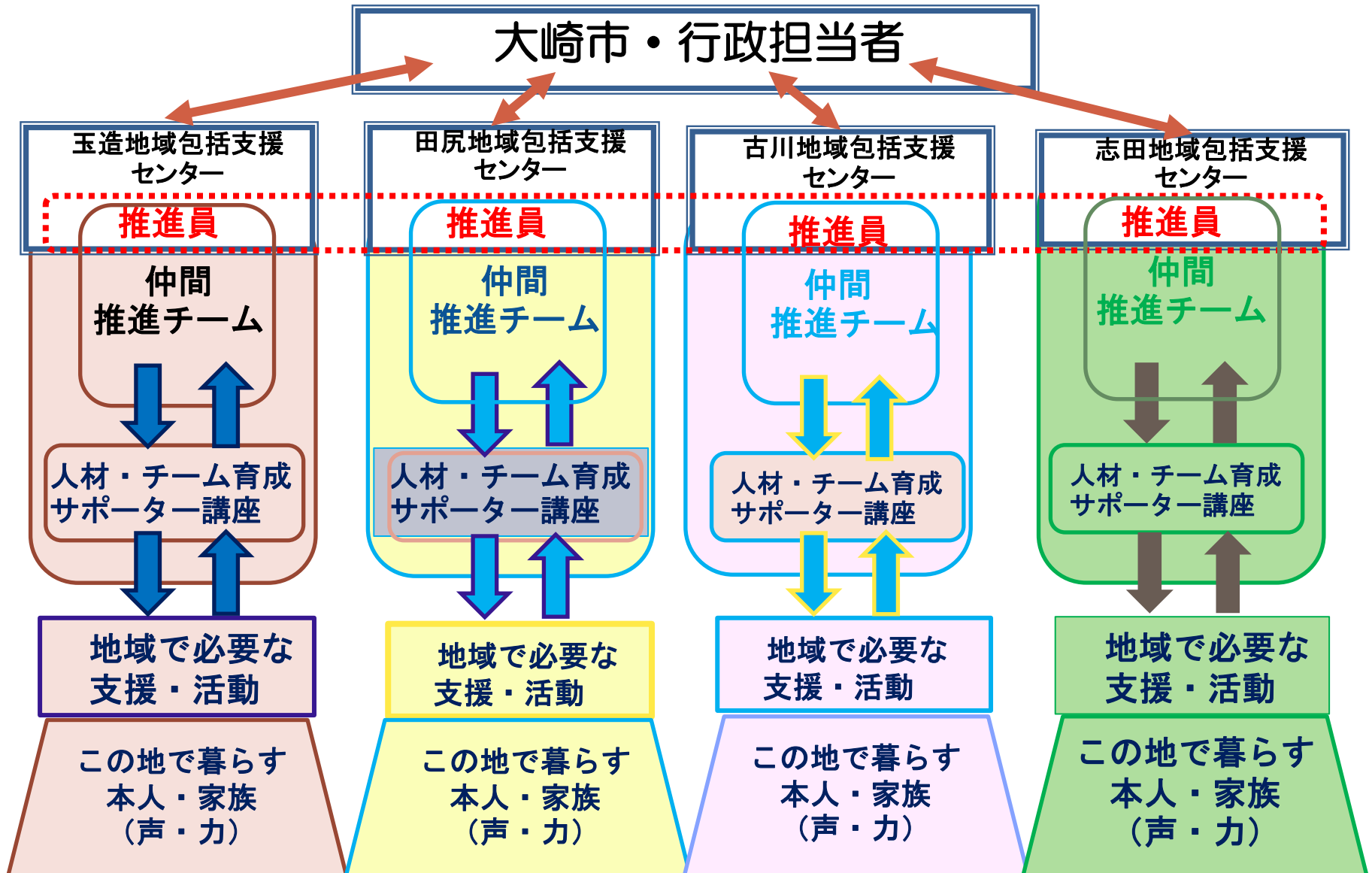


地域人材・チーム育成
プログラムを自治体が
事業化し、毎年継続
している市

※担当者が代わっても推進チームが育っていると取組みが継続

認知症地域支援推進チーム人材育成を通じて～約2年間～

本人の視点を大切にする仲間・推進チームが育つ⇒チームで地域の専門職・住民を育成
⇒各地域ごとに工夫しながら地域活動を展開⇒本人・家族が早めに身近な場・人とつながる



ジューミンジャーは

◆地域密着型サービス事業所連絡会◆

の取り組みです。

介護老人福祉施設 悠和荘
グループホーム 太陽荘
グループホーム 敬寿荘
小規模多機能 むつき
認知症対応型デイ つむぎ

グループホーム
ユニットリーダー

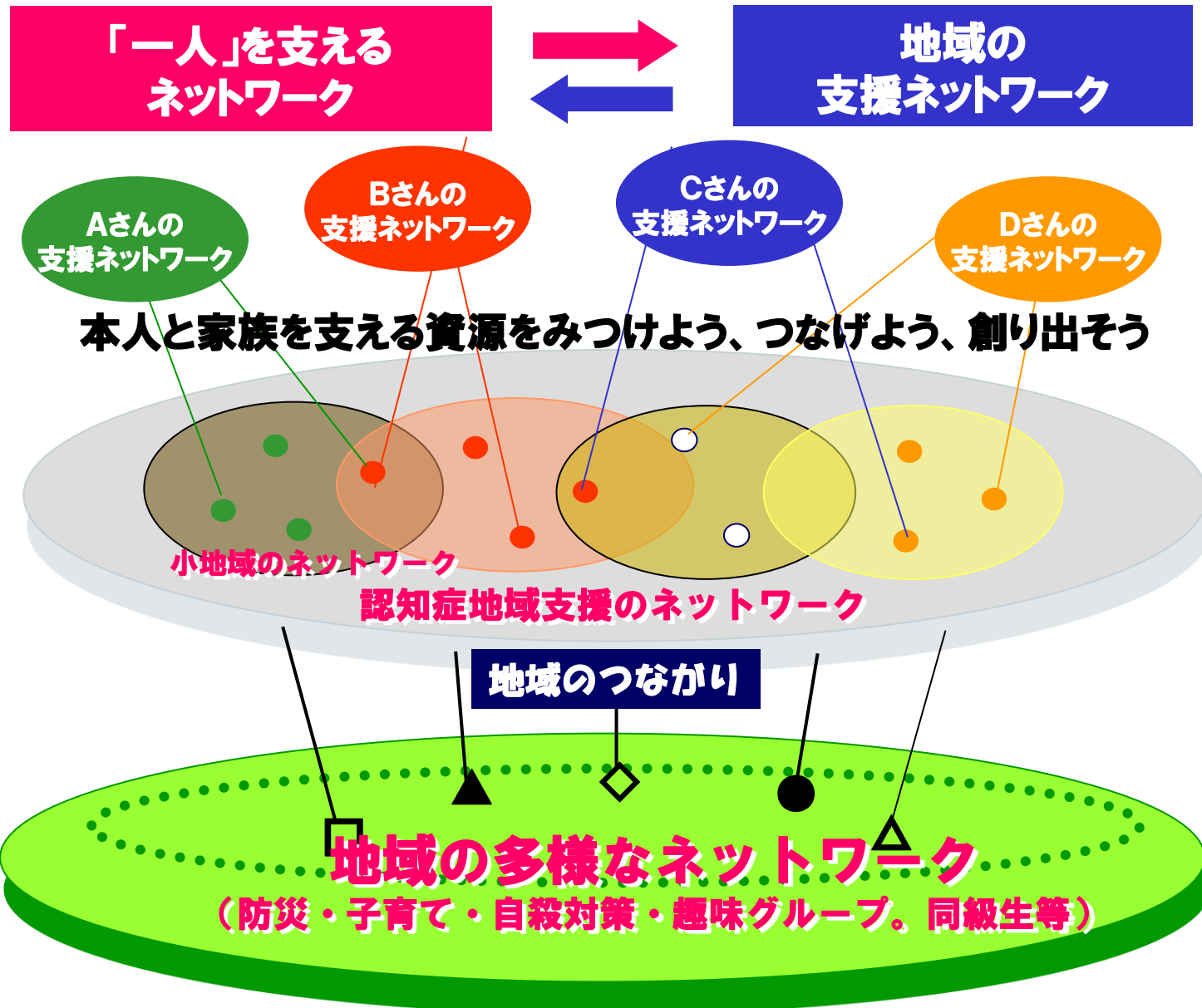
小規模多機能
管理者



平成28年度からは
小規模デイが
4か所参加！



地域を舞台に、ひたすらつなぐ お互いがもっと楽に・楽しく



本のご紹介

**佐藤雅彦著：「認知症になった私が伝えたいこと、
大月書店、2014年11月発行**



**認知症になっても
できることがある。**

いろいろな工夫がある。

**自分の人生・日々を
前向きに楽しもう！**

【各市町村における 認知症地域支援推進員の活動報告】

朝日町

朝日町

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 12,523人、65歳以上人口 5,129人、高齢課率 40.95%

①地域支援推進員配置開始

平成26年12月～

②配置人数

7人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	保健センター
1人	4人	0人	2人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
7人	0人	0人	7人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士
0人	4人	0人	3人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・ 専門病院が他市にあり、なかなか受診に繋がらない。
- ・ 専門医にかかることへの抵抗(認知症への偏見)があり、理解が進まない。
- ・ 徘徊ケースは、役場へ通報があり、ケアネットや地域住民、警察が、通報を受けて動いている現状。ネットワークシステム化されていない。
- ・ 受診介助や見守り、服薬管理などを行う社会資源(フォーマル、インフォーマル資源も含めて)が少ない。マンパワー不足。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・ 医療・介護等の支援ネットワーク構築。
- ・ 地域住民や関係機関に対する認知症への理解と啓発
- ・ 対応力向上のための取組。

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

認知症施策の重層化・関係機関連携体制の構築

H27 認知症ケアパス策定

- ・ サービスの掘り起こし、確認
- ・ 本人や家族の様子、課題整理
- ・ 必要な支援内容の確認
- ・ 推進員間の連携

●地域で暮らす
認知症の方や家
族への生活支援
●介護保険サー
ビスやインフォ
マルなサービス
支援の存在

切れ目ない
支援・連携

H29 もっと知りたい認知症

(認知症対応力向上支援)

7月 認知症初期集中支援チーム員
サポート医・訪問歯科診療医・特別養
護老人ホーム介護士等協働による一
般住民向け研修会開催(予定)

認知症初期
集中支援
チーム・連携

H28 認知症になっても在宅で 暮らすために

(認知症対応力向上支援)

7月 地域在宅医療センター、開業医や
関係機関と連携し、地域住民向けに開催
11月 認知症疾患医療センター、居宅支援
事業所、介護保険事業所等と
合同事例検討会開催

認知症予防
対策

認知症サ
ポーター養
成講座・スキ
ルアップ講座
開催

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

認知症地域支援推進員の配置と活動について

【設置】行政(高齢福祉係)・地域包括支援センター・保健センターに配置。次年度は、在宅介護支援センターにも2名配置予定。

【課題】全員が兼務。推進員としての活動は困難だが、各々の日常業務として携わる認知症の知識・理解啓発活動や認知症予防事業で得た、当事者の声や地域を、関係者間で、共有し、施策に活かしていくこと。→ 情報共有と検討する会議の定例開催など。

(2) 今後の計画や工夫

認知症地域支援推進員として、次年度の活動に向けて検討会を開催。

目的:一般住民の「認知症」を自分事として捉えてもらうための取組。

「認知症予防と対策」

サポート医による初期集中支援チームの活用や、訪問歯科診療医による口腔ケアの必要性、介護職員による適切な介護指導(教室)開催を予定。

入善町



1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 25,695人、65歳以上人口 8,541人、高齢率 33.2%

H28.4.1 現在

①地域支援推進員配置開始

平成27年6月～

②配置人数

3人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	保健センター
1人	0人	1人	1人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
3人	0人	0人	3人

⑤ 職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	理学療法士
0人	0人	0人	2人	1人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・高齢化が進み、要介護認定率が上昇とともに、認知症高齢者も上昇。
高齢化率 H20 27.3%→H28 33.2%(5.9%上昇)
在宅認知症高齢者 H21 314人→H28 382人(68人増)
- ・町に、認知症専門病院(物忘れ外来)がない。
- ・近隣のいかわ認知症疾患医療センターまで、約30キロあり、受診をすすめる際、距離がネック。
→初診が遅れたり、通院継続が困難となる。
- ・介護保険サービス以外に認知症の人を支える仕組みの不足(認知症カフェなど)
- ・認知症サポーターの数が増えたが、具体的な活動に、つながっていない。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・地域住民への認知症の啓発(認知症サポーター養成講座・出前講座など)
- ・認知症の方及びその家族への相談支援
- ・医療・介護等の支援ネットワーク構築及び社会資源の開発・強化
- ・認知症ケアパスの冊子の普及及び更新作業メンバー

～ 認知症の方や家族を地域ぐるみで支えるために ～



- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1. 認知症が何？と思った方へ | 1ページ |
| 2. 認知症とは？ | 2ページ |
| 3. 認知症の方への接し方 | 3ページ |
| 4. 認知症の症状の変化と入居時のサービス内容（ケアパス） | 4ページ |
| 5. 認知症に関する検索窓 | 6ページ |
| 6. 色覚サービス | 7ページ |
| 7. 認知症ケアパス概要 | 12ページ |
| 8. 検索エリアック | 13ページ |

入善町

全16ページ

- はじめに -

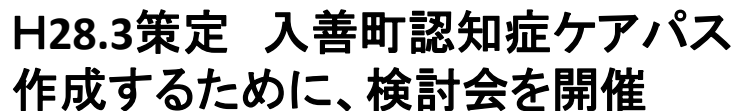
この認知症安心ガイドは、ご自身やご家族が認知症になったときの不安を軽減していただけるよう、認知症の状態で応じて利用できる本町のサービスをを中心に、認知症についての基礎知識、認知症の方への接し方、認知症の簡単なチェックリストなどについて正とめたものです。

もし、自分が癩癧症になったときにどのような生活ができるのか、また、ご家族や大切な方が癩癧症になったときにどのように変えていくことができるのか、あらかじめ癩癧症について知り、考えるきっかけとして、また、ケアマネジャー等の介護関係者におかれましては、本ガイドを活用いただければ幸いです。

認知症ケアバスとは

認知症は、その進行とともに状態が変化するため、状態に応じた適切な支援を受けることが大切です。

状態に応じて「いつ」「どこで」「どのような」医療・介護サービスを受けられるのか、認知症の方やそのご家族があらかじめシミュレーションできるように、具体的な機関名やケア内容等をまとめたものを「認知症ケアパス」といいます。



- ・関係機関に配布し、説明会を行った。連携を深める機会を持てた。
- ・窓口相談時のツールとして活用。

4. 認知症の症状の変化と入善町のサービス内容(ケアパス)

副乳症の進行の例（右に行くほど発症から経過年が経過し進行している状態）

[illegible]

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介(2)



H28.9月号 入善広報にて、認知症特集編集を行なう

- ・全戸配布する。
- ・認知症ケアパスも紹介する。
- ・この特集をきっかけに、病院受診に繋がった方がいた。

誰にでも認知症はやって来る

認知症は、脳の機能が衰えることで、記憶や判断力、行動力などが低下する病気です。高齢になると、認知症になるリスクが高まります。しかし、早期発見・早期対応により、認知症の進行を遅くしたり、症状を軽減したりすることが可能です。

認知症によるもの	認知症でないもの
記憶力が低下し、物忘れが多い	記憶力が低下し、物忘れが多い
物忘れが頻りに起こる	物忘れが頻りに起こる
物忘れが頻りに起こる	物忘れが頻りに起こる
物忘れが頻りに起こる	物忘れが頻りに起こる
物忘れが頻りに起こる	物忘れが頻りに起こる

認知症って何だろう

認知症は、脳の機能が衰えることで、記憶や判断力、行動力などが低下する病気です。高齢になると、認知症になるリスクが高まります。しかし、早期発見・早期対応により、認知症の進行を遅くしたり、症状を軽減したりすることが可能です。

認知症を支援する専門機関

認知症を支援する専門機関は、認知症の診断、治療、ケア、支援などを行います。入善町では、認知症ケアパスを導入し、認知症のケアを一元化しています。

やってみよう認知症チェック

3項目以上で「あり」となれば、認知症の疑いがあります。早期発見・早期対応により、認知症の進行を遅くしたり、症状を軽減したりすることが可能です。

- 記憶力が低下し、物忘れが多い
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる
- 物忘れが頻りに起こる

認知症は早期発見、早期対応が大切

認知症は早期発見、早期対応が大切です。早期発見により、認知症の進行を遅くしたり、症状を軽減したりすることが可能です。

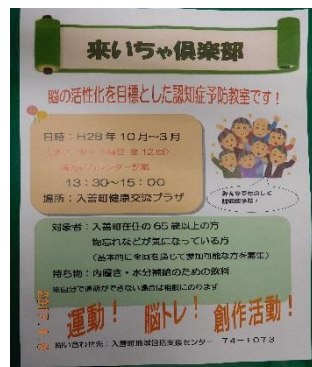
認知症を支援する専門機関

認知症を支援する専門機関は、認知症の診断、治療、ケア、支援などを行います。入善町では、認知症ケアパスを導入し、認知症のケアを一元化しています。

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介(3)



2016.10.13



H28.6～11 小学生へ認知症の啓発を行なう。

- ・全6校の5年生へ認知症サポーター養成講座を開催。
- ・初回の開催時は、報道機関へ行事案内し、PRする。

認知症予防教室(来いちゃ倶楽部)の開催

- ・もの忘れ相談プログラム(タッチパネル式簡易検査)で12点以下だった住民対象に実施。
- ・10月～3月 月2回開催。15名参加。
- ・町内のキャラバンメイトがスタッフとして会をサポート。

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

認知症地域支援推進員の活動の中で、地域課題が未整理

(2) 今後の計画や工夫

認知症地域支援推進員連絡会を開催し、認知症の地域課題の整理、解決策を検討する。

黒部市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

総人口 41,818人、65歳以上人口 12,501人、高齢化率 29.9%（平成28年11月末現在）

①地域支援推進員配置開始

平成25年

②配置人数

7人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	認知症カフェ
3人	1人	2人	1人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
6人	1人	1人	6人

⑤ 職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	介護福祉士	管理栄養士	主任介護支援専門員
—	3人	—	1人	1人	1人	1人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症施策の課題

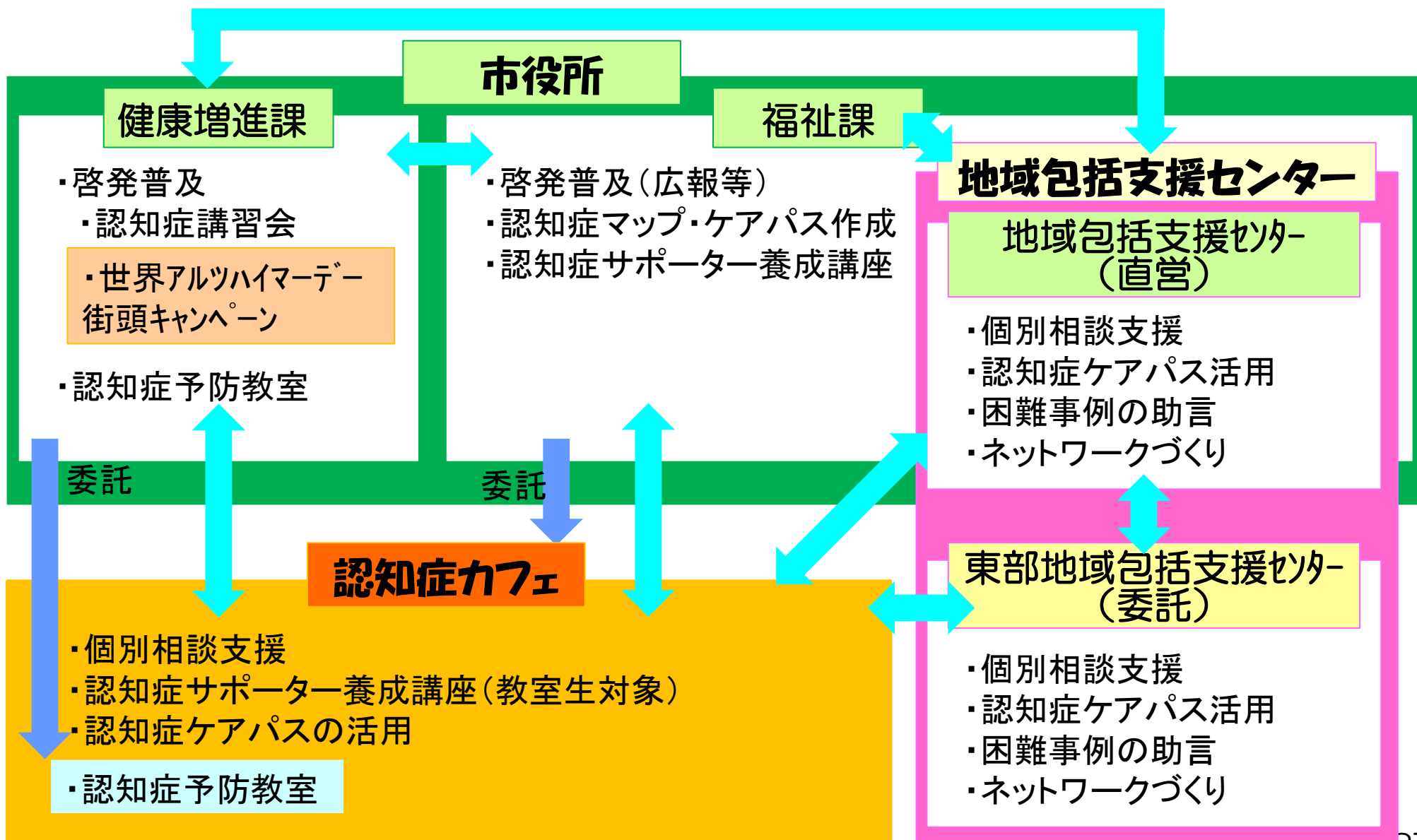
- 気軽に相談できる場が知られていない
- 関係者との連携が不十分である



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- 医療・介護等の支援ネットワーク構築
 - 容態に応じて必要なサービスを受けられるよう関係機関との連携支援体制の構築
 - 認知症ケアパスの普及
- 認知症対応力向上のための支援
 - 在宅で暮らす認知症の人や家族に対する効果的な介護方法等の専門的な相談支援
- 相談支援・支援体制構築
 - 認知症の人や家族等への相談支援
- 地域住民への認知症に対する正しい理解の啓発普及

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 ～活動①～



3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 ～活動②～

福祉課

市の認知症施策

- ・ 啓発普及・・・広報、ホームページ
- ・ 認知症マップ・ケアパス作成、周知
- ・ 認知症サポーター養成講座（受付、調整、依頼、協力）

健康増進課

正しい知識の啓発普及、介護予防

- ・ 認知症講演会の開催
- ・ 認知症予防教室の開催
- ・ 世界アルツハイマーデー街頭キャンペーン



3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 ～活動③～

地域包括支援センター 誰もが「安心」して地域で暮らせるように

- 個別相談支援
- 困難事例の対応
- 地域ケア会議への参加
- ネットワークづくり

地域ケア会議で配慮した点

- 認知症である**本人自身を理解**してもらえるように（本人の**強み**に着目）
- 事前に**家族の了解**を得ながら、協力の輪を広げていく
- 地域の理解と見守りの中で、関わる人の「**安心感**」を得られるように

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 ～活動④～

認知症カフェ ☕ 「気軽に相談できる場」となるように

- 個別相談支援
- 認知症ケアパスの活用（相談対応、カフェ内掲示）
- 認知症サポーター養成講座の開催（認知症予防教室利用者を対象）



3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 ～成果～

福祉課

- 認知症サポーター数の増加
- 認知症ケアパスの作成・普及

健康増進課

- 認知症予防教室利用者の増加

地域包括支援センター

- 個別事例の関わりを通して関係者間のネットワークづくり

認知症カフェ

- 認知症予防教室利用者、認知症カフェ利用者の増加

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症地域支援推進員同士の情報共有する機会がない
- ・関係者間のネットワークづくり
- ・認知症マップ・ケアパスの普及
- ・気軽に相談できる場の充実(認知症カフェの周知)
- ・認知症サポーターの育成及び活用

(2) 今後の計画や工夫

- ・課題解決に向けて協力できるネットワークづくり
 - ・認知症地域支援推進員の定例会議(平成28年度～)
- ・地域で活動できる認知症サポーターの育成
 - ・認知症サポーター養成講座ステップアップ研修(平成29年度～)
 - ・活動の場づくり
- ・気軽な相談場所「認知症カフェ」の周知
- ・認知症カフェでの家族向け介護教室の開催(平成29年度～)

魚津市

魚津市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 42761人、65歳以上人口 13814人、高齢率 32.3%

①地域支援推進員配置開始

平成24年

②配置人数

5人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	健康センター
2人	2人	1人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
5人	0人	0人	2人

⑤職種

医師	保健師	理学療法士	社会福祉士
0人	2人	1人	2人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・一般市民が認知症に対する理解を深めるため普及啓発を行っているが、単発事業で終わりがちであること。
- ・認知症に関する医療・介護サービスと連携を図っているが更なる充実
- ・若年性認知症の把握方法・支援について



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・認知症に関して正しい知識を深め、認知症に対する普及啓発を行う。
- ・認知症本人や家族に対して医療機関・介護サービスや地域の支援機関等へつなぐコーディネーターとしての役割

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

○認知症地域支援推進員の主な活動例をご紹介します。

○またその過程で、認知症地域支援推進員が関わったことで何らかの成果が得られている場合は、ぜひご紹介下さい。

【活動例】

- ・認知症サポーター養成講座
- ・認知症カフェや介護家族の会の企画・運営
- ・にいかわ認知症疾患医療センターとの共催による認知症無料相談会の開催

【成果】

- ・認知症のパンフレットやケアパスを作成するにあたり、認知症地域推進員もメンバーとなり検討した。

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・行政職員としての業務と認知症地域支援推進員としての活動が重なっている。

(2) 今後の計画や工夫

認知症の理解・普及啓発をさらに行っていきたい。今までにサポーター養成講座を行った所を見直し、新たな対象の拡大に向け、情報収集や話し合いを行っていく。

富山市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 418,179人、65歳以上人口 118,083人、高齢率 28.2%

①地域支援推進員配置開始

平成27年10月～

②配置人数

5人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(委託)
5人	0人

④配置状況

常勤	兼務
5人	5人

⑤ 職種

保健師	社会福祉士	精神保健 福祉士
2人	2人	1人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・認知症の早期発見、早期対応の体制構築
- ・家族などの介護負担を軽減するための施策の充実
- ・地域の見守り体制の充実
- ・認知症の介護サービスの充実



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- (1) 認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、地域包括支援センター、認知症疾患医療センターを含む医療機関や、介護サービス事業者等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る
 - (2) 地域における認知症の人とその家族等を支援する相談支援や支援体制を構築する
認知症コーディネーター(地域包括支援センターに配置)のバックアップ
 - (3) 認知症関連事業の企画・調整
 - (4) 認知症の普及・啓発に関すること
- など

認知症コーディネーター

地域における認知症事業全体をコーディネートし、関係者と協力しながらより連携の取りやすい体制を整えるため、地域包括支援センターに**認知症コーディネーター**を配置している。

認知症コーディネーターの役割

- ① 認知症地域説明会（認知症サポーター養成講座）
 - ② 認知症の窓口相談
 - ③ 認知症高齢者見守りネットワークの構築・実態把握
 - ④ 徘徊SOSネットワークの整備
 - ⑤ 認知症になっても暮らせるまちづくり
 - ⑥ 実践的事例会議およびブロック別研修会
- 等

第1回認知症コーディネーター会議	平成28年4月20日
第2回認知症コーディネーター会議	平成28年12月7日



認知症実務者研修会

【参加者の声】

認知症と水分、栄養、排便、活動についての関わりを改めて学ぶことができた。

【参加者の声】

- ・多職種によるグループワークの意見交換は好感もてた。
- ・グループによっていろいろな方面から考えさせてもらい勉強になった。

富山市認知症総合支援事業検討委員会

第1回ワーキング	平成27年12月10日
第1回検討委員会	平成27年12月21日
第2回ワーキング	平成28年1月14日
第3回ワーキング	平成28年2月29日
第2回検討委員会	平成28年3月15日

認知症ケアパス等作成・普及

富山市

認知症 ガイドブック

このガイドブックは、
認知症が疑われるときから
病気の進行にあわせて
いつ、どこで、どのようなサービス・支援
があるのかわかりやすく紹介しています。
認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して、
認知症の人やその家族のために作成しました。
一人で抱え込まずに、専門機関に相談したり、
介護サービスを上手に活用することで、
認知症の人も、介護する家族も、
心や体の負担が軽くなります。
ぜひ、このガイドブックをご活用ください。



認知症の人やその家族
のために、早期受診の大
切さや病気の進行に あ
わせた対応、利用できる
サービス・支援などをわか
りやすく紹介する「富山市
認知症ガイドブック」を作
成。

配布先

市内の医療・福祉・介護関係機関

医療機関

地域包括支援センター

居宅介護支援事業所

特別養護老人ホーム

老人保健施設

小規模多機能型居宅介護支援事業所

グループホーム

等

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

・本市に置いては、認知症コーディネーターが各包括支援センターに配置されており、それぞれの地区で現状に合わせたまちづくりの取組を推進している。認知症の疑いがありながらもサービスに繋がることができなかつたり、介護者が介護うつに陥ってしまったりするなど様々な背景や課題を抱えた困難事例についてコーディネーターへのバックアップが必要。

(2) 今後の計画や工夫

今後、動き出す認知症初期集中支援チームとの連携や家族支援を実施するにあたり、市の認知症相談窓口の第一線となる認知症コーディネーターと十分に意識共有し、更なる連携を図っていく。

滑川市



1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 33,399 人、65歳以上人口 9,584 人、高齢化率 28.7 %



①地域支援推進員配置開始

平成28年4月～

②配置人数

4人

研修受講者数 4人(H27年度 2人、H28年度 2人)

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)
-	4人	-

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
3人	1人	0人	4人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士
0人	1人	1人	2人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- 高齢化が進み、地域で生活する認知症高齢者が増加。
→ 軽度の認知症の方が通えるような場はない(介護保険サービスばかり)
- 地域住民の中には、認知症＝何もできない、施設だ！！というマイナスなイメージが未だにある。
- 医療機関との連携が不十分(図りにくい)。
- 認知症の普及啓発事業は包括が主となり行っており、各介護保険関係事業所に協力を呼びかけるが、積極的な活用に至らない。
- 既存の事業はあるが、上手く活用できていないのではないかと？
(例：認知症カフェの参加者が減少・
今年度徘徊SOSネットワークの実績が1件のみ)



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割



- 認知症に関する相談支援。
→認知症の人は勿論、介護する家族にも寄り添い、その負担軽減を図れるよう必要な地域資源や制度等の情報提供を行う。
- 認知症の普及啓発に向けた取組みの企画や実施。
- 認知症に関する相談支援医療・介護等の支援ネットワーク構築。

**各事業の実施については、連携を図りながら
一体的に進めていく！！**



3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

認知症施策のテーマ

認知症とあゆむキラリン人生を応援します！



滑川市認知症高齢者等にやさしい地域づくり 支援事業（H23年度～）



新Ⅰ 認知症総合支援事業の実施（H28年度～）

（１）認知症初期集中支援推進事業

認知症初期集中支援チームの設置

（２）認知症地域支援・ケア向上事業（認知症地域支援推進員の配置）

Ⅱ 徘徊SOSネットワークの構築

Ⅲ 認知症地域支え合い体制の構築

（１）協力団体ステッカー作成 （２）見守りネットワークの構築

（３）認知症についての普及啓発

（４）認知症サポーター養成及びメイト活用

認知症地域支援推進員の主な活動 その1



認知症ケアパスの作成

タイトル : 「認知症 笑顔で ☺ 安心ガイド」

①自己チェック編（認知症の普及啓発）

②サービス・支援活用編（段階ごとで利用できるサービス一覧）

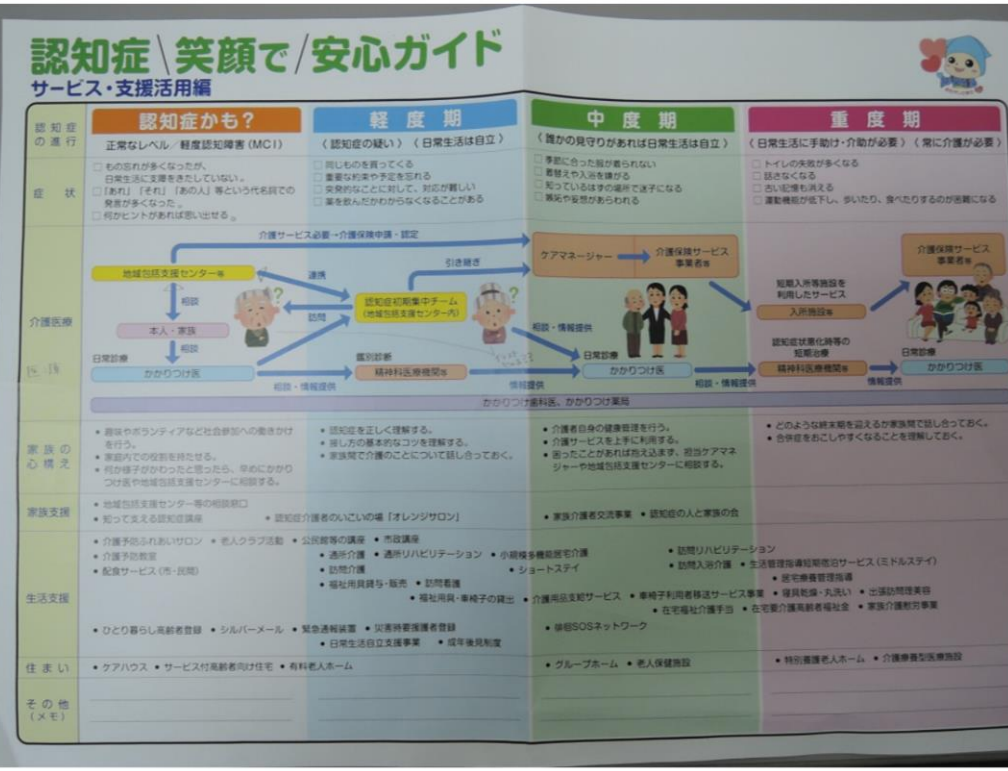
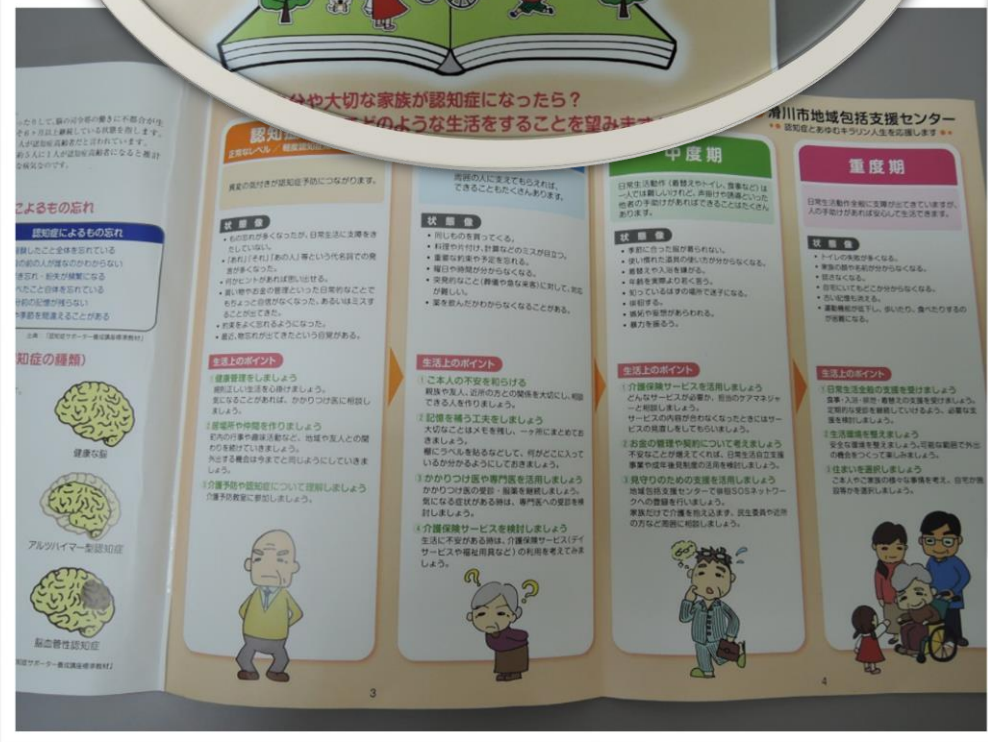
③シニアお助け帳（専門職が活用）

H26年度～配布開始

一般住民が活用、必要時に相談

課題

軽度者が通えるような場所がない。車（移動手段）の問題。
認知症を発症してから利用できるものは介護保険サービスばかり。
→本人らしさを支えるって？



↑②サービス・支援活用編

↑①自己チェック編



認知症地域支援推進員の活動 その2



認知症カフェ(オレンジサロン)について H24.4月～スタート

ほたるの里と共同で実施。

開催日時: 2ヶ月おき

(奇数月の日曜に開催)

10:00～12:00

開催場所: 市民交流プラザ3階

研修室2

※サロンの間、ミニデイサービスを同時
開催！本人も一緒に参加可能！！



課題

参加者の減少。企画のマンネリ化…。PR不足？

成果

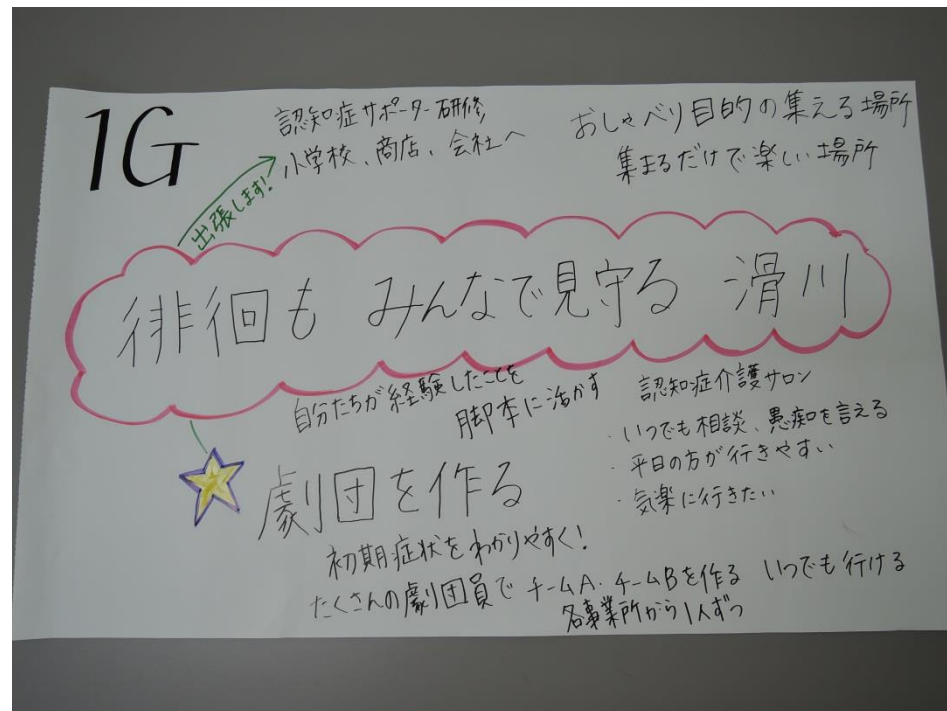
参加者一人一人の満足度が高い！

参加者の中には自身の介護の大変さを話される中で涙ぐまれる方も。

認知症地域支援推進員の活動 その3



認知症施策の充実に向けて...



介護保険関係事業所職員を対象に隔月で実施している包括主催の研修会（H24年度～実施）の1回を「滑川市の認知症施策について」というテーマで開催（H28.10.17）。

成果

滑川市の現状を知ってもらえた！自分たちに何ができるのか？考えてもらうきっかけになった！！

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・ 認知症施策担当者＝認知症地域支援推進員
- ・ 推進員は地域包括支援センターのみ配置
⇒他の市町村はどのような現状？
- ・ 認知症施策は行政のみで行っていくものではない
⇒いかに“協力者”を増やしていくかが重要

(2) 今後の計画や工夫

- ・ ケアパスを作成中⇒全戸配布予定(2月以降～)
- ・ 認知症カフェ(オレンジサロン)⇒今年度最終回にアンケート実施
- ・ これから介護を担う世代と小中学生に向けて認知症の普及啓発
- ・ 介護保険関係事業所を巻き込んでいく仕組みづくり



立山町

立 山 町

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 26,592人、 65歳以上人口 8,254人、 高齢化率 31.0%（H28.12.1現在）

①地域支援推進員配置開始

平成28年 4月～

②配置人数

2人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	
	2人		

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
2人			2人

⑤ 職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	
	2人			

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症施策の課題

- ① 早期発見・受診・対応につながらないことがある
本人・家族の認識不足、一人暮らし・高齢者世帯の増加
- ② 地域の意識や支援体制・サービスの不足
気軽に相談できる場が少ない、周知不足
- ③ 初期対応や今後の計画については、広域で検討が必要



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・地域の実情に応じた連携支援(医療機関・介護サービス事業所・支援機関をつなぐ)
- ・認知症の人やその家族の支援(相談)
- ・認知症の正しい知識の普及・啓発

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

○認知症サポーター養成講座 …… 正しい知識の普及・啓発

・平成28年度受講者数 : 106人 (H28.12.31現在)

※ サポーター数 : 509人

・講義担当者

「認知症サポーターステップアップ講座(認知症サポーター上級者育成)
指導者養成研修」受講

○認知症カフェ(おれんじカフェ) …… 認知症の人やその家族の支援 正しい知識の普及・啓発

・H28.12月～ 町内グループホーム(5事業所)で随時開催中

・県内先進地視察

○認知症ケアパス …… 正しい知識の普及・啓発

・広域町村(2町1村)で作成中 ※ 一般向け



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

【 認知症地域支援推進員の配置 】

- ・専任の配置ではないため、どの程度活動に時間をかけることができるか。

【 活動 】

- ・認知症について一般的にその存在が周知されつつあるとはいえまだまだ疾病に関する一般の知識は乏しく、関心や支援体制も十分とはいえない。 ⇒ 知識等の普及啓発

(2) 今後の計画や工夫

認知症の正しい知識や対応の普及・啓発

- ・認知症カフェの充実 …… 合同カフェ(交流会・研修会等)の開催
- ・認知症サポーター数の増加 …… 町職員、児童 等

地域の課題や社会資源の整理

上市町

上市町

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 21,431人、65歳以上人口 7,197人、高齢率 33.58%

①地域支援推進員配置開始

平成24年度～

②配置人数

2人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	
0人	2人	0人	0人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
2人	0人	0人	2人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	
0人	0人	1人	1人	0人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

・事業が単発的であり、有機的な連携ができていない、継続的に認知症について普及啓発をしてきているが、地域の方に理解してもらうには、まだまだ不十分など、課題は多い。
 その中で、認知症地域支援推進員は、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、医療・介護の連携やネットワークの構築、認知症の人や家族を支援を行う。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

・医療(病院、かかりつけ医)・介護等の関係機関と連携強化し、効果的に認知症の支援ができるネットワークの構築。
 ・関係者の認知症対応力の向上及び認知症高齢者等が安心して暮らせる町づくりのための施策や支援の推進。

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

○医療・介護等の支援ネットワーク構築

- ・つるぎたてやま在宅ネットワーク 認知症支援部会
- ・認知症ケアパスの作成(中新川介護保険課と各構成町村と共同)

○認知症の対応力の向上のための支援

- ・認知症カフェの開設(月1回 第2木曜日)
- ・認知症多職種協働研修会の実施
- ・事例検討会

○相談支援・支援体制構築

- ・もの忘れ相談会
- ・家族教室

○認知症の普及啓発・人づくり

- ・認知症サポーター養成講座の開催(小・中・高校・一般)
- ・刃生がいの大学(認知症サポーター養成講座、フォローアップ研修会)
- ・認知症の講演会

○その他

- ・はいかいSOSネットワーク、模擬訓練(年1回)

おれんじカフェ

- 日にち 月1回 第2木曜日
13:30~15:00
- 対象者 認知症の人、家族など、どなたでも
- 参加費 220円
- 参加者 8名~25名
- スタッフ 認知症地域支援推進員、ボランティア



ミニミニ運動会 ↑



ぶどう狩り ↑



クリスマス会 ↑

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症地域支援推進員の周知
- ・認知症地域支援推進員の連携・情報共有
- ・個別課題から地域課題へと施策等につなげる
- ・認知症サポーターの活用

(2) 今後の計画や工夫

- ・認知症地域支援推進員の連絡会の開催
- ・近隣の認知症地域支援推進との情報交換

舟橋村



1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 3,006人、65歳以上人口 566人、高齢課率 18.8%

①地域支援推進員配置開始

平成28年10月～

②配置人数

3人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	
1人	0人	2人	0人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
3人	0人	0人	3人

⑤ 職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	
0人	1人	2人	0人	0人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・旧地区と新地区で特性の違いもあるが、全般的に認知症の基礎知識や相談窓口の啓発が不十分。
- ・医療機関との連携が不十分。
- ・認知症の普及啓発事業等は、単発事業で終わっている。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、認知症の人と家族を支える地域づくりを目指し、認知症施策全般に関与する。

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

①キャラバンメイトと連携し、「認知症サポーター養成講座」をシルバー人材センター・老人クラブ・ボランティア団体を対象に行っている。キャラバンメイトと一緒に企画・打合せを行い、それぞれ役割分担を行った。キャラバンメイトスタッフ等による演劇で認知症への対応について分かりやすく周知することにつながった。



②平成29年度から実施予定の「認知症カフェ」について、開催場所、実施回数、内容、スタッフ等について話し合いを進めている。平成29年3月に試行的に開催し、当事者、家族、専門職種等が認知症について語り合い、村として進むべき方向を検討するため、認知症地域支援推進員が中心になり調整を行っていく予定。



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症地域支援推進員の役割が明確になっていない。
- ・認知症の基礎知識や相談窓口の啓発普及が不十分である。
- ・認知症関係スタッフが情報交換や事例検討する場が確立されていない。

(2) 今後の計画や工夫

- ・平成29年度は「認知症ステップアップ講座」を実施予定。また、若い世代に関心を高めてもらうことを目的に中学2年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施予定。今後もキャラバンメイトと連携して実施していく予定。
- ・認知症カフェなどでニーズの把握に努めながら、関係機関が連携し活動しやすくなるように調整し、事業や人がつながっていくように工夫していく。
- ・認知症関係スタッフの定例会を設け、情報共有やスキルアップを図る。

高岡市

高岡市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

総人口 174,492人、65歳以上人口 55,116人、高齢化率 31.6%（H28年4月1日）

①地域支援推進員配置開始

平成27年4月～

②配置人数

11人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)
0人	0人	11人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
11人	0人	0人	11人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士
0人	3人	6人	2人

わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・高齢化が進み、要介護認定者のうち「認知症」の方が増加している。
- ・早期相談・早期受診の啓発が今後も必要（相談時、本人の認知症が重症化している）。
- ・一人暮らし、高齢者世帯の世帯が増えており、軽度認知症の早期発見につながりにくい。
- ・認知症の家族への介護負担軽減・サポート体制の充実が必要



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・認知症の疑いの方、その家族からの相談支援・支援体制構築
- ・医療と介護等の支援ネットワーク構築
- ・認知症対応力向上のための支援

認知症地域支援推進員の役割



高岡市

協働

認知症地域
支援推進員

※地域包括支援
センターに配置



相談支援・支援体制構築

- 認知症の人や家族等への相談支援
- 「認知症初期集中支援チーム」との連携、
終結後の支援体制

医療・介護等の支援ネットワーク構築

- 認知症の人が認知症の容態に応じて
必要な医療や介護等のサービスを受けられ
るよう関係機関との連携体制の構築
(サポートチームの形成・評価)

- 認知症ケアパス作成、普及

認知症対応力向上のための支援

- 認知症事例検討会の開催
- オレンジ倶楽部(認知症カフェ)の協力・連携

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

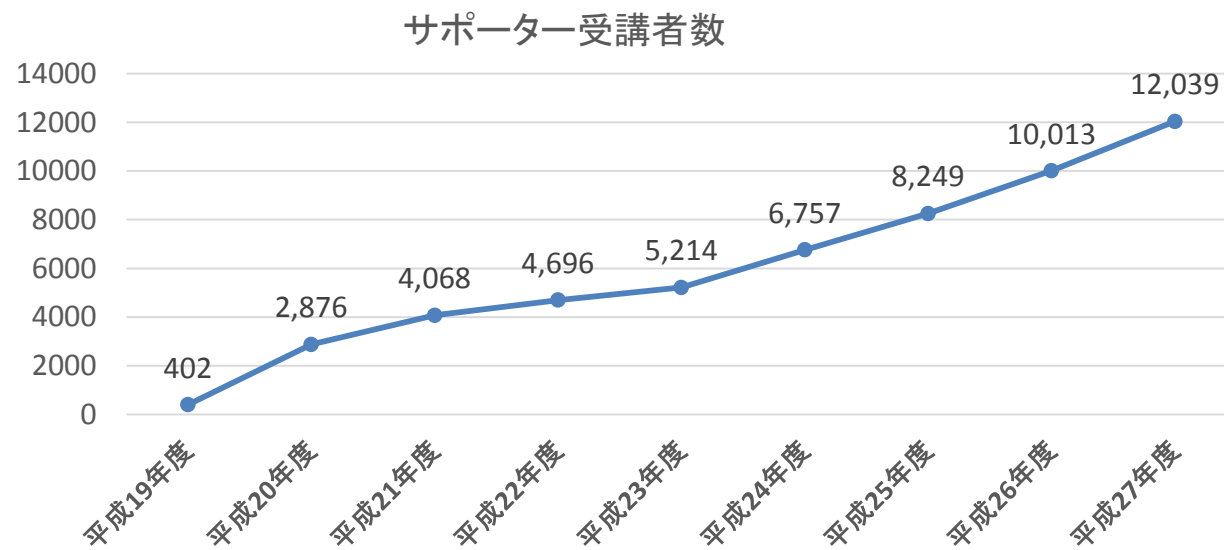
- 認知症に関する相談体制の強化
- 認知症サポーター養成講座の開催
- 定例的な認知症地域支援推進員連絡会の開催
- 認知症安心ガイド(認知症ケアパス)の内容の更新、作成
- 認知症等の地域で見守り体制の構築するサポートチームの形成、
評価
- RUN伴TOMO-RROW2016の周知、当日協力
- 各居宅支援事業者、地域包括支援センターを対象にした認知症
事例検討会の開催
- 認知症・地域ケア相談医(高岡医師会で登録)との医療と介護の連携

〈認知症の方やその家族を支える体制づくり〉

○認知症サポーター養成講座の開催

目的:正しい認知症の理解と早期発見、早期対応の普及啓発をはかる。

受講者:郵便局、企業等の職域の受講者や学生等、多世代サポーターが増加!



<相談支援・支援体制構築>

○相談支援

	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (4～10月末)
認知症に関する相談件数	2,517	2,639	1,534

○認知症初期集中支援チームとの連携

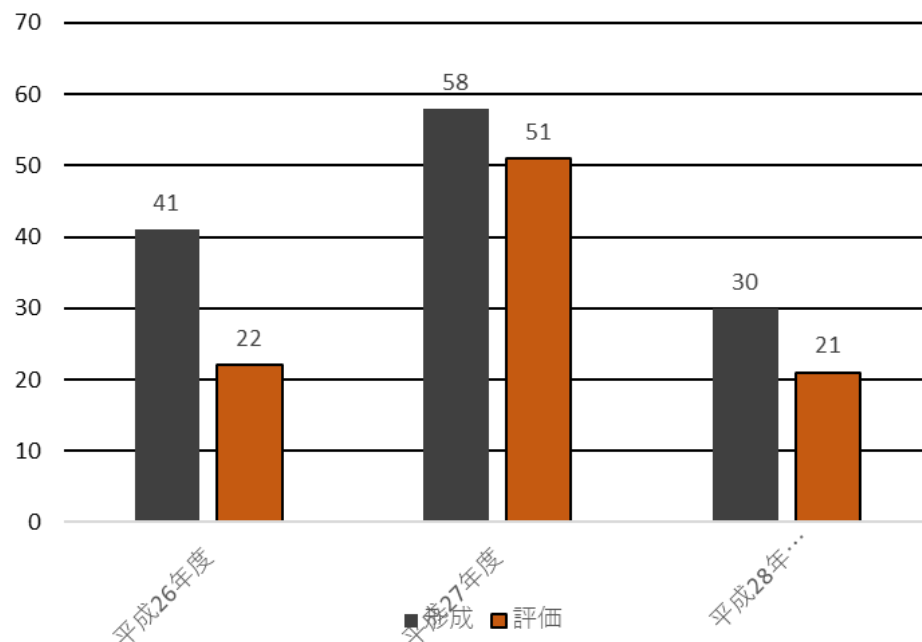
※各地域包括支援センターから集中チームへ繋いだ件数

	平成27年度 (9月～H28年3月)	平成28年度 (4月～10月末)
チームへの 相談件数	11	18

〈医療・介護等の支援ネットワークの構築〉

○サポートチームの形成・評価

目的：認知症等の方が、地域で安心して生活されけるよう、関係者や関係機関でサポートするチームを形成し、見守る体制を構築する。必要時期に評価していく。



○認知症安心ガイド(認知症ケアパス)作成・普及

目的：認知症の人或いはその家族から相談があった時、本人の認知症の状態・段階に応じ、適切なケア、サービス等に繋げるため活用するもの。

成数：3,000部



RUN伴の認知症地域支援推進員の協力 (事前準備、ランナーへの声援)



認知症の正しい理解と普及のため、認知症本人や支援者が「たすき」を繋いで、全国をマラソンする。富山県内は、9月23日に開催し、実行委員会に認知症地域支援推進員が協力した。



<認知症対応力向上のための支援>



○認知症事例検討会・研修会 ～認知症・地域ケア相談医との連携～

目的：認知症の人やその家族への相談・支援した事例を多職種で、振りかえる事により、認知症の支援の方向性や多角的なアプローチについて、認知症支援への対応力の向上を図る

	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (4～10月末)
事例検討会・ 研修会開催数	12	14	11

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症地域支援推進員の活動(認知症の普及啓発、相談、医療と介護の連携支援、ネットワーク構築)が広範囲にわたり、市全体での認知症地域支援推進員活動目標、役割をより具体的に、共通理解を行う必要がある。
- ・今後、さらに認知症の高齢者とその家族を地域で見守り支援していく体制を推進していく必要がある。

(2) 今後の計画や工夫

- ・認知症地域支援推進員連絡会を定期的を行い、推進員同士での情報共有、活動評価を行い、推進員のスキルアップ(認知症対応力の向上、医療と介護の連携ネットワークの構築)を図る
- ・小・中学校、高校等の「教育機関」や地域での郵便局、企業等の「職域機関」での「認知症サポーター養成」を推進し、認知症の適切な普及啓発をさらに開催していく
- ・認知症に関する相談支援の充実と必要な事例において、「認知症初期集中支援チーム」との連携を推進する

射水市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

総人口 94,050人、65歳以上人口 27,112人、高齢化率 28.8%（平成28年9月末現在）

①地域支援推進員配置開始

平成27年4月～

②配置人数

5人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)
0人	0人	5人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
5人	0人	5人	0人

⑤職 種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	介護支援専門員
0人	0人	2人	2人	1人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・ 高齢化の進行と、認知症高齢者の増加。
- ・ 高齢者ひとり暮らし世帯、高齢者のみ世帯の増加。

射水市の高齢化率と認知症高齢者の推移（9月末）

	総人口	高齢者人口	高齢化率	認知症高齢者数
H23	95,788	22,824	23.8	2,806
H28	94,050	27,112	28.8	3,131

射水市の高齢者ひとり暮らし世帯数と高齢者のみ世帯数の推移（9月末）

	総世帯数	ひとり暮らし世帯数	高齢者のみ世帯数	率
H23	31,986	3,262	2,964	19.5
H28	34,364	4,477	8,720	38.4

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・ 地域での認知症予防の啓発、対応力向上のためのしくみづくり。
- ・ 認知症の早期発見・早期診断につながる医療・介護等の支援ネットワークの構築。
- ・ 本人とその家族への支援の充実。

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 No.1

認知症サポーター養成講座

内容：認知症に関する基礎知識
認知症の人やその家族への
支援のあり方
実績：235回 8,816人参加

認知症オレンジちゃんねる
(ケーブルテレビ)

内容：射水市の取り組みや
「認知症ささえ隊」の活動等
時間：毎月第3週に1日4回放送

地元ローカル新聞に
コラム掲載

内容：認知症を理解
するための啓発
活動
回数：毎月



射水市認知症ささえ隊
オリジナルマスコット
「オレンジちゃん」

認知症徘徊高齢者声かけ模擬訓練

内容：サポーター養成講座と併せて
声かけの方法や対応方法の訓練
実績：28回 723人参加

認知症カフェ

内容：気軽に集い、お茶を飲みながら会話を
楽しんだり、脳トレ体操等を行う。
場所：市内5カ所（各包括事業所内、病院内）
回数：各年4回（任意で毎月開催もあり）

ケアパスの発行

WGにより、
平成27年7月発行

もの忘れ・認知症相談会

内容：もの忘れや認知症に対する相談
に応じる
場所：市内の病院、市役所等
回数：月1回

推進員部会の開催

内容：推進員と市の活動内容や
課題の共有
回数：月1回

地域ケア（個別事例）会議

内容：専門職だけではなく、地域
住民と一緒に、いろいろな視
点からの意見交換を行う会議
回数：随時

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介 No.2

認知症徘徊高齢者声かけ模擬訓練



地元ローカル新聞にコラム掲載

認知症ささえタイムス ①
大門大島地域包括支援センター 52-0800

このコーナーでは隔月で認知症相談会や、認知症を予防する講演会等の案内をしていきます。また、認知症に関する制度なども分かりやすくお伝えしていきます。

どこに相談して良いかわからない心配事や悩まされれば、まずは地域包括支援センターにご相談ください。場所は、物忘れ・認知症が多くなった「お金」を盗まれた上などの症状がみられる場合、早期受診、早期対応をすることが大切です。そのため、射水市では毎月第2木曜日の午後2時から4時まで市内各地で相談会を行っております。予約優先で相談は無料です。



〇物忘れ・認知症相談会 14:00～16:00
10月8日(木) 大阪屋 アブリオ店
11月12日(木) カモンショッピングセンター

〇認知症予防講演会「ストップ・ザ・認知症」
10月10日(土) 13:30～15:30
アイザック小杉文化ホール ラーベール

情報工房
ポトライン
KOSUGI

あなたも「認知症サポーター」になりませんか？

射水市では、認知症について正しく理解していただくために、自治会や学校、商店街、職場などに講師が向かい、認知症サポーター養成講座を開催しています。認知症サポーターとは、認知症についての基本的な知識を持ち、認知症高齢者やその家族の身近な理解者として活動する人のことをいいます。講座を受講された方には「認知症の人を応援します」という意思を示すバッジをお渡ししています。

射水市では、H27年8月現在6,000人以上の認知症サポーターがおり、その方々でできる範囲で見守り活動などを行っています。認知症サポーター養成講座「開催をご希望の方は、こちらまで 射水市長寿介護課 TEL82-1952」認知症キャラバン・イベント・養成講座」を受講した講師がいます。

※「キャラバン・イベント」は、市民の主体的な活動の場を設け、認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法を習得いただけます。

★認知症に関する相談会等

もの忘れ・認知症相談会 アルビス大島店 1月14日(木) 14:00～16:00 予約優先
予約連絡先/射水市長寿介護課 TEL82-1952

認知症カフェ おれんじカフェ(特別養護老人ホーム大島) 1月9日(土) 14:00～16:00
オレンジカフェさくら(特別養護老人ホーム大島) 1月7日(木) 13:30～15:30

認知症カフェ



もの忘れ・認知症相談会



地域ケア（個別事例）会議



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

「認知症」が身近でない方にも、正しい知識と理解を広めていくため、まずは認知症地域支援推進員の存在と活動内容（予防からサポートまで）を地域住民に認識してもらう必要がある。

(2) 今後の計画や工夫

- ・地域で予防、地域での自助・互助を推進するため、地域住民等を対象に認知症の正しい知識の普及啓発活動を活発化し、本人とその家族を温かく見守る「認知症サポーター」の増員と充実を図る。
- ・気軽に相談できる機会や場所を拡充し、早期発見・早期診断に繋げていく。
- ・地域発信での予防活動のひとつとして「きららか射水100歳体操」の普及と支援を積極的に行う。

氷見市

氷見市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 49,189人、65歳以上人口 17,560人、高齢化率 35.7%

①地域支援推進員配置開始

平成28年4月～

②配置人数

6人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	相談窓口(委託)
0人	2人	0人	4人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
6人	0人	5人	1人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	介護福祉士
0人	1人	2人	1人	2人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・認知症の理解不足等により、対応が困難になってからの相談が多い。
- ・認知症の相談窓口や地域包括支援センターを知らない人が多い。
- ・認知症を隠したいと考える傾向があり、地域で孤立しやすい。
- ・認知症＝入所という考えが根強い。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・認知症の正しい知識の普及・啓発活動
- ・認知症の相談窓口、地域包括支援センターのPR活動
- ・高齢者宅訪問活動等を行い、地域の実態やニーズを把握
- ・相談支援体制の構築やネットワーク作り など

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★認知症ケアパス(氷見市認知症あっかりガイド)の作成、普及活動★



7 認知症の経過と相談支援				
正常な状態	軽度認知障害(MCI) (認知症予備群)	認知症初期	認知症中期	認知症後期
本人の苦痛の例 ●認知症の予兆に気をつける ●認知症や介護の知識を身につける ●かかりつけ医を見つける ●何か嫌なことがあったら早めに相談する	●認知症の予兆に気をつける ●認知症や介護の知識を身につける ●かかりつけ医を見つける ●何か嫌なことがあったら早めに相談する	●認知症の予兆に気をつける ●認知症や介護の知識を身につける ●かかりつけ医を見つける ●何か嫌なことがあったら早めに相談する	●認知症の予兆に気をつける ●認知症や介護の知識を身につける ●かかりつけ医を見つける ●何か嫌なことがあったら早めに相談する	●認知症の予兆に気をつける ●認知症や介護の知識を身につける ●かかりつけ医を見つける ●何か嫌なことがあったら早めに相談する
認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい	認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい	認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい	認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい	認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい 認知症や介護の相談をしたい

認知症高齢者等見守り体制推進会議 ワーキング部会で検討し、作成
認知症に早期に気づき、相談や受診先がわかる内容で、相談時に活用できるもの
広報ひみ9月号と共に全戸配布、関係機関等へ配布

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★認知症予防講座や相談時にあつまりガイドを活用★

認知症の基礎知識や予防、早期発見、
受診の大切さを伝えています



まずは認知症について
関心を高めてもらえるように

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★認知症サポーター養成講座開催★



学校・警察署・薬局や地域住民など、幅広い世代に向けて開催
対象等に合わせて寸劇やロールプレイ、クイズ形式等、内容を工夫

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★地域イベントでの普及・啓発活動★

地域医療推進フォーラム

SOSネットワーク模擬訓練

RUN伴参加

地域を巻き込んでの認知症普及・啓発活動も行っています

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★訪問活動・相談支援★

直接相談があったケースや独居・高齢者世帯宅、きときとチェックシートのもの忘れ項目に該当した高齢者宅などを対象に訪問活動を行っています。



実際に地域に出向き
本人と家族の声を聞きながら
実態と課題、ニーズを把握



訪問活動で包括のPRや
相談窓口の周知も

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

★地域ケア会議等への参加や推進員会議の実施★



- ・活発に意見交換し、地域・医療・福祉関係者とのつながりを
- ・月1回、認知症地域支援推進員会議を実施し、活動を検討

4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症地域支援推進員、地域包括支援センターの認知度が低い。
- ・推進員同士の情報共有、報告・連絡・相談支援体制の強化
- ・推進員のスキルアップと活動評価
- ・認知症初期集中支援チームの立ち上げと支援体制の整備

(2) 今後の計画や工夫

- ・訪問活動や認知症サポーター養成講座などを通じ、推進員・包括の認知度を上げる。
- ・推進員会議を月1回から2回にし、活動計画や成果の確認を行う。内部研修を行い、推進員のスキルアップを図る。
- ・訪問、相談から、認知症初期集中支援チームの対象を把握し、立ち上げの検討会を行う。

砺波市

砺波市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 49,095人、65歳以上人口 13,884人、高齢化率 28.28%(平成28年12月31日現在)

①地域支援推進員配置開始

平成27年3月～

②配置人数

2人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	
0人	2人	0人	人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
2人	0人	0人	2人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	
0人	1人	0人	1人	人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増え、支援者が少ないケースの増加
- ・住み慣れた地域で暮らすことができるよう、介護保険サービスだけでなく、地域全体で支援していく体制づくり
- ・認知症に対する正しい知識と対応方法を広く住民に周知することが必要



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

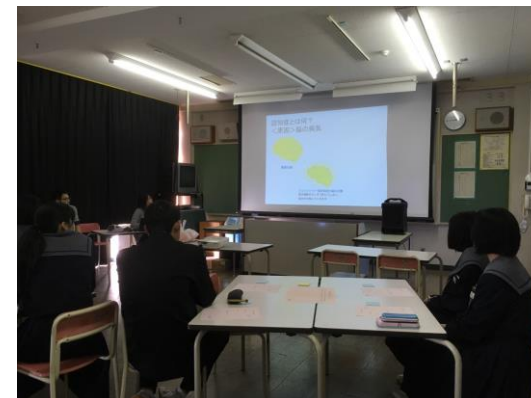
- ・地域で関わる支援者、既存組織の把握及び互いに情報共有できる関係づくり(顔の見える関係)
- ・認知症施策の目的や効果の振り返り
- ・認知症に関する事業への参加

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

- ・認知症初期集中支援チーム
- ・認知症カフェ
- ・認知症サポーター養成講座（地域のグループ、事業所、中学校等で講座を開催）
- ・徘徊SOS緊急ダイヤルシステム事業
- ・地域での集いの場（いきいき百歳体操等）

◎認知症初期集中支援チームへの参加

- ・訪問による実態把握、医師、ケアマネジャー、サービス事業所、民生委員等の地域住民との連携
→住み慣れた地域で生活できるよう支援



◎認知症サポーター養成講座

- ・地域のグループ、事業所、中学校等で講座を開催
→より多くの住民に認知症の正しい知識や対応方法を普及



◎住民主体による集いの場

- ・地域で声をかけ合い、認知症の人と一緒に体操へ参加

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

◎認知症カフェ(平成28年度～)

市内3か所で開催

ケアラースカフェ みやの森カフェ・・・スタッフ、参加者でゆったりお話
ものがたり茶屋(ものがたり診療所太田)・・・医師による認知症講座、地域住民も集う場に
駅南くつろぎ処 ちえりー・・・さまざまな講座と茶話会

開催日には

地域包括支援センター職員(認知症地域支援推進員含む)が出向き、相談支援も

- ・カフェの雰囲気に合わせて自由に参加できる
参加者との座談会ではさまざまな思いが聞かれ・・・

認知症の夫を連れた買物

トイレでの忘れ物をしたら・・・

→認知症であることを細かく説明しないと対応してもらえないことも

介護が必要であることが一目でわかるように

→「**介護マーク**」普及のきっかけに



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症支援推進員というよりも、地域包括支援センター職員としての認知症に関する事業参加が中心である
- ・事業の目的や内容をふまえ、認知症の方や支援者（地域住民、事業所等）に合った事業が実施できているかを見極めることが必要

(2) 今後の計画や工夫

- ・認知症に関する事業への参加
 - 地域の実情に合わせた支援ができているかをまずは考えていく（相談場所のPR、必要な資源の提案等）
- ・地域で関わる支援者の把握及び互いに情報共有できる関係づくり
 - 日頃から顔の見える関係を作り、必要な支援を一緒に考えていけるように

小矢部市



1 認知症地域支援推進員の配置状況

【H28.4.1現在】

○ 総人口 31,020人 ○ 65歳以上人口 10,397人 ○ 高齢化率 33.5%

○ 総世帯数 10,233世帯 ○ 高齢者のみ世帯 2,390世帯(内、一人暮らし 1,140世帯)

①地域支援推進員配置開始 平成27年4月～

②配置人数 2人

③配置場所 地域包括支援センター(直営)

④配置状況 非常勤(専従)

⑤職種 保健師(介護支援専門員)



2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・高齢化が進み、認知症高齢者の増加を予想している。
- ・医療と介護の連携の更なる推進。
- ・認知症施策の啓発普及の推進。
- ・認知症予防施策の推進。



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ① 医療・介護等の支援ネットワーク・連携体制の構築。
- ② 認知症の啓発・対応力向上のためのしくみづくり。
- ③ 相談支援・支援体制の構築。





3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

1. 関係機関との連携体制の構築
 - ①居宅介護支援事業所連絡調整会(月1回)への参加と意見交換
➡「認知症地域支援推進員訪問依頼連絡票」の作成【別紙1】
 - ②訪問及びケース会議への参加(6件)
 - ③地域包括支援センター連絡会議での情報共有と協議
 - ④認知症初期集中支援チームとの連携訪問等(3件)
 - ⑤民生委員からの認知症事例紹介による訪問及び必要な支援等
 - ⑥警察からの情報提供(行方不明や物取られ妄想等)高齢者への訪問(3件)
2. 認知症相談の機会提供
認知症カフェの開催 日常生活圏域3圏域 各1会場×毎月1回 【別紙2】
3. 若年認知症の人とその家族に対する支援・相談
当事者と家族の交流を目的に開催・体験談や認知症ケア専門士の助言【別紙3】
4. 介護認定後のサービス未利用者や認定切れになった認知症高齢者の現状把握・支援
5. 認知症についての啓発普及
 - ①認知症サポーター養成講座(サポーター数 9,087人／開催回数 247回)
 - ②認知症高齢者徘徊見守り模擬訓練(年1回 8地区/全14地区)【別紙4】
 - ③認知症を知るつどい(年1回) 他

【別紙1】

認知症地域支援推進員訪問等連絡票

(提出日) 年 月 日

居宅介護支援事業所

介護支援専門員

下記の対象者に、認知症地域支援推進員の訪問等を依頼します。

住 所	小矢部市 (連絡先)
対象者	氏名 (生年月日)
主病名	(主治医)
家族構成	一人暮らし・高齢者のみ世帯
状態像	認知症自覚度 (I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・V)
依頼内容	
※認知症地域支援推進員の訪問等について了解 (済 ・ 未)	
※介護支援専門員の同行希望 (有 ・ 無)	

H28

【別紙2】

オレンジカフェ

「家族が認知症かも?」「介護で疲れている」など、認知症のことで悩んでいませんか?
認知症に関わる家族や本人、介護に関わる方などでも、専門相談員とゆったり話したり、
お互いに相談をし合える場として、毎月オレンジカフェを開催しています。
1人で悩まず、ご都合のよい時間に気軽にお越しください。お待ちしております。



オレンジカフェ城山店

場所

デイサービスセンター
心楽 (こころく)
小矢部市城山町 2-42
電話 0766-67-6611

時間

午後 1 時 30 分～4 時

※毎月第 2 土曜日開催 (原則)

オレンジカフェ芹川店

場所

バスケットデイサービス
かいぐん
小矢部市芹川 3887-1
電話 0766-68-0266

時間

午前 9 時 30 分～11 時 30 分

※毎月第 3 土曜日開催 (原則)

オレンジカフェ臼谷店

場所

はっちょうとんぼ
デイサービス
小矢部市臼谷 6520
電話 0766-69-7227

時間

午後 1 時 30 分～4 時

※毎月第 4 土曜日開催 (原則)

オレンジカフェ開催日程

平成 28 年度	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
城山店 第 2 土曜日	9 日	13 日	10 日	8 日	12 日	10 日	14 日	11 日	11 日
芹川店 第 3 土曜日	18 日	※ 22 日	19 日	17 日	21 日	19 日	16 日	20 日	20 日
臼谷店 第 4 土曜日	23 日	27 日	24 日	22 日	26 日	24 日	28 日	25 日	25 日

※芹川店の 8 月の開催日は第 4 土曜日です。

●参加費：無料 ●お申し込み：不要

【主催・問い合わせ先】小矢部市健康福祉課 (小矢部市地域包括支援センター)
小矢部市鷺島 15 電話：0766-67-8605

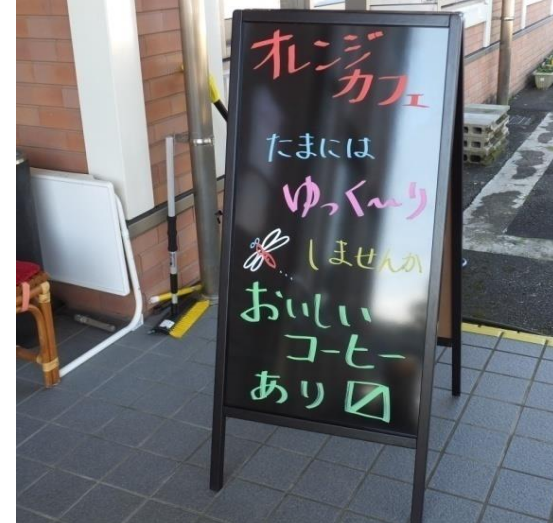
平成 28 年 9 月

認知症の人とその家族の相談の場

オレンジカフェ

〔H26.11月よりオープン〕

☆ H27.6月より2号店➡H28.7月より3号店 オープン！



- ・相談の場
- ・悩みを話す場
- ・本人支援の場
- ・ゆったり過ごす場

🍓 ストロベリークリームの会への参加について(ご案内) 🍓

寒い季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

小矢部市では、若年性認知症のご本人とその家族の交流を目的に、

「ストロベリークリームの会」を開催しております。

是非ご参加くださいますようご案内いたします。ご家族だけでもご参加いただけます。

記

日 時 平成 29 年 1 月 31 日(火) 午後 2 時から 4 時

(受付 午後 1 時 45 分 ~ 2 時)

場 所 小矢部市総合保健福祉センター 1 階 リハビリルーム

対 象 64 歳以下で発病し、現在 74 歳までの方

内 容 ① 座談会

— 本人や家族の思いと利用しているサービスなど —

② お茶タイム

③ 個別相談(希望者)



* 申込み方法

参加希望の方は、準備の都合のため 1 月 20 日(金)までに電話でお申込みください。

《問い合わせ・申込み先》

小矢部市健康福祉課(地域包括支援センター) ☎ 67-8605



荒川地区

認知症高齢者 徘徊見守り模擬訓練

認知症になっても安心して住みなれた地域で暮らしたい
そんな願いがかなう小矢部市を目指しています

訓練の目的

いつものように散歩に出ても「普段とちがう」「帰り道がわからない」と気づいたときに、近所の方々に声をかけていただくことで事なきをえることがあります。

今回、『徘徊』について地域の方に知っていただき、『徘徊』が「敬少」になるまちづくりを目指して、関係者や地域の方と一緒に「模擬訓練」を実施します。

ぜひご参加ください！

日 時 平成 28 年 10 月 30 日(日) *雨天決行

午前 9 時 30 分~12 時 (受付:午前 9 時~)

会 場 荒川公民館(芹川 194 TEL 67-1214)

内 容 ☆ 模擬訓練 「荒川地区で声をかけてみましょう」

☆ ミニ講座 「認知症を理解する~徘徊について~」

講 師 松岡病院 副院長 松岡 理 先生

<問い合わせ先>

小矢部市健康福祉課(小矢部市地域包括支援センター)

小矢部市鷹島 1 5 番地

電話: 67-8605 FAX: 67-8602



○主 催: 小 矢 部 市

○共 催: 荒川地区自治振興会・荒川地区社会福祉協議会

見守り・声かけ模擬訓練



どうされました？



ミニ講座

「認知症を理解する」

講師 松岡病院

副院長 松岡 理先生



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・認知症が進行している状態であるにも関わらず、医療や介護、周囲の支援が適切に提供されていない事例がある。（周囲のあきらめや、困っていることの認識がない状態等）
- ・認知症になっても、安心して暮らせる地域づくりへの取組の充実。
- ・認知症ケアパスの普及推進。

(2) 今後の計画や工夫

- ① きめ細かいアウトリーチにより、事例を通じた関係機関との連携強化。
- ② 地域ケア会議等の開催により、地域の見守り及び支援体制の構築。
- ③ 生活支援コーディネーターとの協働。



南砺市

南砺市

1 認知症地域支援推進員の配置状況

※平成28年度配置予定を含む

総人口 52,945人、65歳以上人口 18,883人、高齢課率 35.7%

①地域支援推進員配置開始

平成28年4月～

②配置人数

2人

③配置場所

市町村本庁	地域包括(直営)	地域包括(委託)	
0人	2人	0人	0人

④配置状況

常勤	非常勤	専従	兼務
1人	1人	0人	2人

⑤職種

医師	保健師	看護師	社会福祉士	
0人	2人	0人	0人	0人

2 わがまちの認知症施策の課題と認知症地域支援推進員に期待する役割

(1) 認知症の課題

- ・高齢化が進み、要介護認定者に占める認知症の割合の上昇
- ・高齢者世帯、一人暮らし高齢者の増加による、家族介護力の低下、発見の遅れ
- ・地域住民の認知症に対する正しい理解がまだ不十分



(2) 認知症地域支援推進員に期待する役割

- ・認知症の人やその家族からの相談支援
- ・状況に応じたサービスが提供されるよう関係機関との連携をはかる
- ・認知症についての正しい知識の普及・啓発

3 認知症地域支援推進員の主な活動、成果の紹介

1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
⇒ **認知症サポーター養成講座・ケアパス作成**
2. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供⇒ **認知症集中支援チーム**
3. 若年性認知症施策の強化
4. 認知症の人の介護者への支援
⇒ **ともいきカフェ・グループホームとの連携**
5. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
⇒ **高齢者見守り模擬訓練・徘徊SOS緊急ダイヤル**

認知症サポーター養成講座

＜目的＞

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り支援する「認知症サポーター」を養成し、**認知症になっても安心して暮らせるまちを市民の手によってつくっていく。**

＜対象者＞

- ・ **住民組織**

（町内会、老人クラブ、婦人会など）

民生委員、ボランティア団体等

- ・ **企業・商店組織団体・市役所職員**

- ・ **小中学生、高校生、PTA等学校関係者 など**



「認知症サポーターキャラバン」マス
コットキャラクターのロバです。



**市長も認知症サポーター
養成講座を受講**



南砺市認知症集中支援チーム

◆こんな相談があったら

家族がもしかしたら認知症・・・？どう関わればいいのか？
どうしたらいいのか分からない！

→地域包括支援センター職員に加えて、
病院の療法士やソーシャルワーカー、臨床心理士さんと一緒に訪問

- ・今後の関わり方のアドバイス
- ・病気のご説明
- ・受診への結びつけ

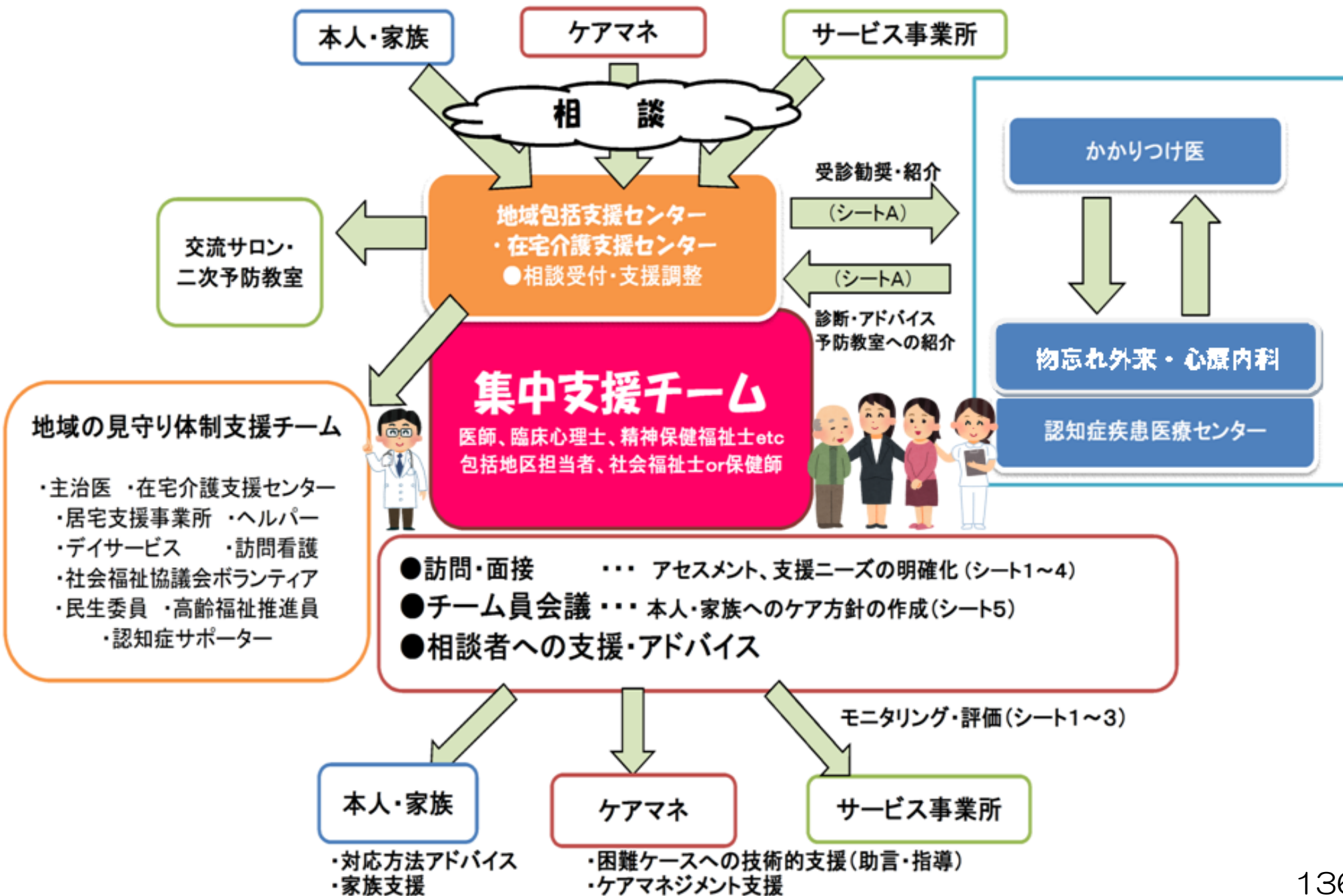
認知症は早期発見や
治療も大切ですが、
接し方もとても大切。



◆開始日

平成25年9月より試行
南砺市民病院、公立南砺中央病院の協力を得る

集中支援チーム連携フロー図



ともいきカフェ

平成28年

ちのいっぶく茶屋

ともいきカフェ

毎日、ご家族などの
介護をしておられる方と
・介護を受けておられる方へ

南砺市では、
市内5か所のお店のご協力を得て
介護者やその家族の方の癒し・
交流・情報交換・相談の場として
「ともいきカフェ」を実施しています。

美味しい珈琲でも
飲みながら
いっぶくしませんか。

「ほっぺー思っはば
ココロもからだも
あーたまる...

★「介護の相談」にお答えいたします
(毎回、専門の相談員が出向きます)
★飲食代は、各自で支払い

問い合わせ先: 南砺市地域包括支援センター ☎23-2034

カフェMAP

①ヒストロ・ホーン・グー
(アスモ内)

②ででれこでん

③かなり

④なやかふえ

⑤トレミー (ヘリオス内)

❖❖どの会場でも参加可能(短時間の参加もOK)

MAP No.	所在地	お店の名前	開催日時		住所
①	井波	ビストロ ・ボン・グー	第1金	午前 10～12時	山見京願1739-2 ★井波ショッピングセンター 「アスモ」1階
②	平	ででれこでん	第2木		上梨742 ★五箇山総合案内所となり
③	福光	かんない	第2金	午後2～4時	福光6871 ★福光福祉会館近く
④	城端	なやかふえ	第3火		野口24 ★野口交差点近く
⑤	福野	トレミー	第4水		やかた100 ★福野文化創造センター 「ヘリオス」1階

★会場の都合で実施日等が変更になる場合があります。ご了承ください。

認知症高齢者徘徊見守り模擬訓練



徘徊高齢者等の安全確保

徘徊SOS緊急ダイヤル

ほっとあっと安心カード
(兼 南砺市認知症高齢者徘徊SOS緊急ダイヤル利用申請書)

南砺市長あて
申請者 住所 南砺市苗島123 平成 年 月 日

氏名 南砺 一郎 (徘徊高齢者等との続柄 子)
電話番号 (0763) 33-4444

徘徊高齢者等が行方不明になった場合、以下の項目が協力団体及び協力員へ配信されることに同意のうえ、認知症高齢者徘徊SOS緊急ダイヤルの利用登録をしたいので申請します。

※配信項目	氏名	性別	年齢	住所(校区)	特徴	行方不明時の服装
写真 ※配信を希望 (☒ する ・ ☐ しない)						

利用者の状況

よりかな 高齢者 氏名	<u>南砺 花子</u> (男・ ☒)		生年月日 (年齢)	<u>明治・大正 <u>(昭和)</u> 7年11月1日 (満80歳)</u>	
住所	<u>南砺市 苗島123</u>		TEL	<u>0763 - 33 - 4444</u>	
高齢者の 特徴	身長 <u>145</u> cm位	めがね <u>(有・無)</u>	体重 <u>44</u> kg位	杖 <u>(有・無)</u>	
	頭髪 <u>(黒髪・白髪)</u>	意思表示 <u>(可・中肉中背・太り気味)</u>	名前 <u>(可・可・可)</u>	名前 <u>(可・可・可)</u>	名前 <u>(可・可・可)</u>
	体型 <u>(可・可・可)</u>	意思表示 <u>(可・可・可)</u>	住所 <u>(可・可・可)</u>	住所 <u>(可・可・可)</u>	住所 <u>(可・可・可)</u>
過去の徘徊	<u>(有・無)</u> (年・月・日)に <u>2</u> 回くらい・無		介護度	<u>要支援(2)</u>	
行動特徴等	<u>その日、徘徊しやすい場所、時間帯などを記入してください。</u> <u>午前中に近くの〇〇商店へ行く。夕方に〇〇中学校のそばで散歩が大好き。</u>				
世帯構成	ひとり暮らし・高齢者世帯(子と同居)その他()				
かかりつけ 医療機関名	名称 <u>〇〇病院</u>	担当医			
	電話番号 <u>11-2233</u>	<u>△△医師</u>			
介護支援 専門員	名称 <u>〇〇居宅介護支援事業所</u>	電話番号			
	氏名 <u>△△ 〇〇</u>	<u>44-5566</u>			
緊急 連絡先	氏名 <u>南砺 一郎</u>	電話番号			
	住所 <u>南砺市苗島123</u>	<u>090-</u>			
	<u>nanto.ichiro@0000.jp</u>	<u>1234-5678</u>			
協力員①	氏名 <u>南砺 久子</u>	電話番号			
	住所 <u>南砺市八雲123</u>	<u>66-7777</u>			
協力員②	氏名 <u>南砺 二郎</u>	電話番号			
	住所 <u>南砺市八雲123</u>	<u>99-1010</u>			

協力員の記入について
親族、近所の方、ケアマネジャー等、身近な方への情報配信を希望される場合、登録していただいた方のメールアドレスを業者に提供することについて、ご本人の同意のうえ、記入してください。

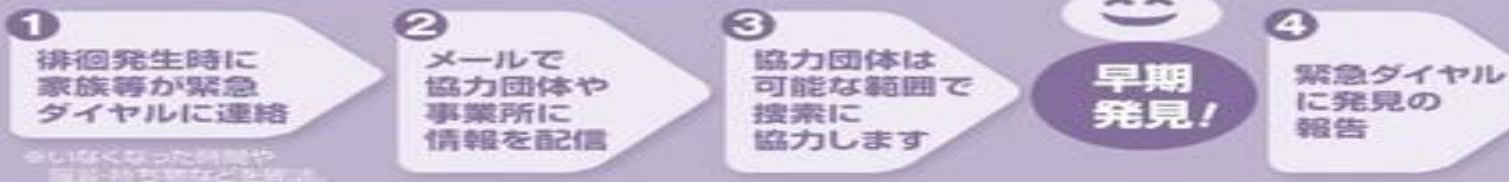
南 市役所記入欄 町村名() 校区()



**認知症高齢者見守り
ステッカー**
(現在:258事業所が登録)

認知症高齢者徘徊SOS緊急ダイヤル設置

徘徊から発見まで



イメージ図



4 認知症地域支援推進員の配置と活動上の課題・今後の計画や工夫

(1) 課題

- ・今年度から2人配置にはなったが、兼務であり、認知症施策を中心になって勧めていく体制が整ったとはいえない
- ・若年性認知症の方への支援経験が少なく、体制整備も不十分

(2) 今後の計画や工夫

- より多くの方に認知症について知って頂く機会をつくるため
- ・キャラバンメイトを活用した認知症サポーター養成講座の拡大
 - ・キャラバンメイトの再研修と活動の仕組みづくり